

## 第5章 障害のある方の地域生活に関する調査（18歳未満）

- 障害者手帳（身体、知的、精神）所持者、難病患者を主にサポートしている方を対象に調査を実施している。

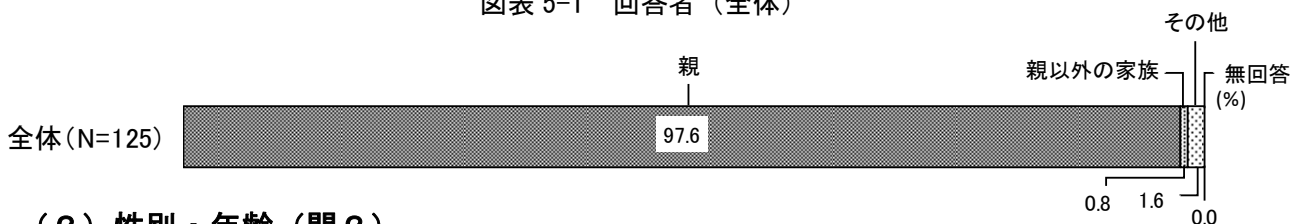
### 1 基本属性

#### （1）回答者（問1）

問1 この調査に回答していただく方はどなたですか。（1つに○）

- 回答者は、「親」が97.6%、「親以外の家族」が0.8%である。

図表 5-1 回答者（全体）



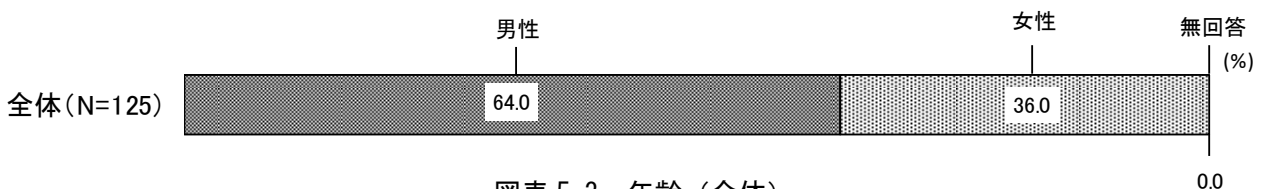
#### （2）性別・年齢（問2）

問2 お子さまの性別をお答えください。（1つに○）

また、平成28年10月1日現在の年齢をご記入ください。

- 性別は「男性」が64.0%、「女性」が36.0%である。
- 年齢は「6歳以上15歳未満（52.0%）」が最も多くなっており、平均年齢は11.6歳である。

図表 5-2 性別（全体）



図表 5-3 年齢（全体）



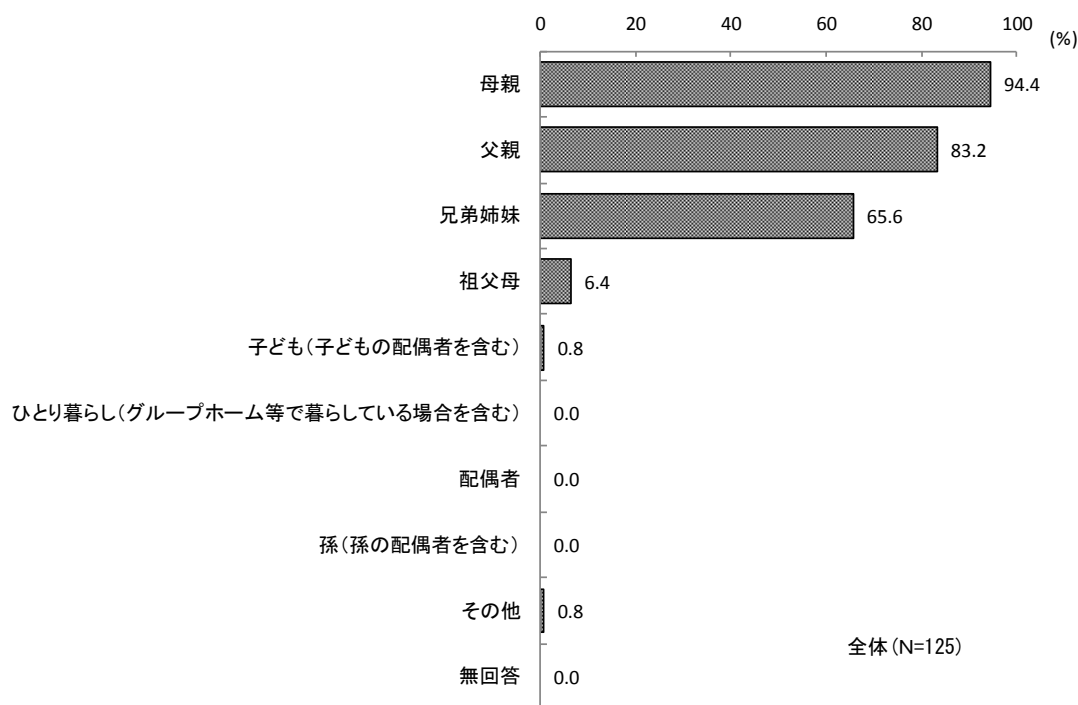
#### （3）同居家族（問3）

問3 現在、お子さまがいっしょに暮らしているご家族は、お子さまからみて、どなたですか。

（いくつでも○）

- 同居家族は、「母親（94.4%）」が最も多く、「父親（83.2%）」、「兄弟姉妹（65.6%）」が続いている。
- 地域別にみると、全地域で「母親」が最も多く、「父親」、「兄弟姉妹」が続いている。南部地域では「父親（71.0%）」の割合は、全体より12.2ポイント低くなっています。

図表 5-4 同居家族（全体：複数回答）



図表 5-5 同居家族（全体，地域別：複数回答）

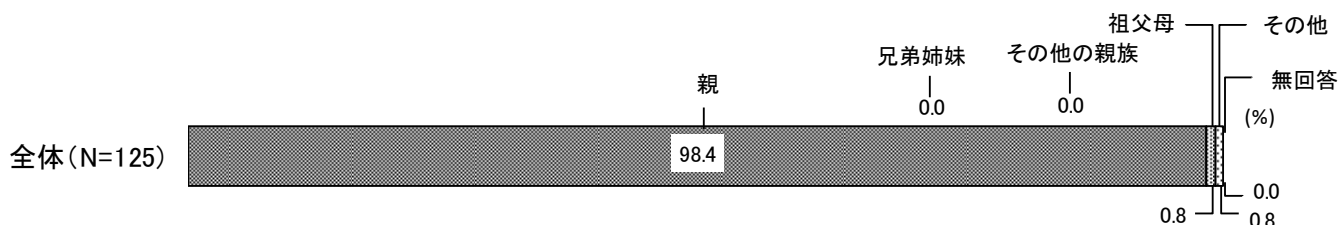
		を暮らし(グループホーム等で暮らしている場合を含む)	ひとり暮らし(グループホーム等で暮らしている場合を含む)	配偶者	父親	母親	子ども(子どもの配偶者を含む)	孫(孫の配偶者を含む)	兄弟姉妹	祖父母	その他	無回答
全	体 (N=125)	0.0	0.0	0.0	83.2	94.4	0.8	0.0	65.6	6.4	0.8	0.0
地域別	東部地域 (n= 15)	0.0	0.0	0.0	100.0	100.0	0.0	0.0	66.7	6.7	0.0	0.0
	西部地域 (n= 49)	0.0	0.0	0.0	83.7	91.8	2.0	0.0	65.3	10.2	2.0	0.0
	南部地域 (n= 31)	0.0	0.0	0.0	71.0	93.5	0.0	0.0	58.1	0.0	0.0	0.0
	北部地域 (n= 28)	0.0	0.0	0.0	89.3	96.4	0.0	0.0	71.4	7.1	0.0	0.0

(4) 主な介護者の続柄，性別・年齢（問4）

問4 お子さまを主に介護や支援，養育をしている方はどなたですか。お子さまからみた続柄で回答してください。（1つに○）  
また，○をつけた方の性別にも○をつけて，年齢をご記入ください。

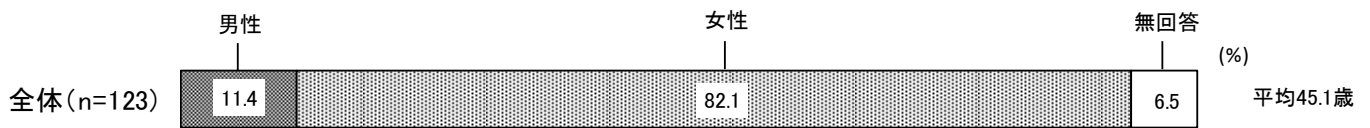
- 主に介護，支援，養育をしている方の続柄は「親」が98.4%である。
- 親の性別は，「男性」が11.4%，「女性」が82.1%である。平均年齢は45.1歳である。

図表 5-6 主な介護者の続柄（全体）



図表 5-7 主な介護者（親）の性別・年齢（全体）

<「親」と回答した人>



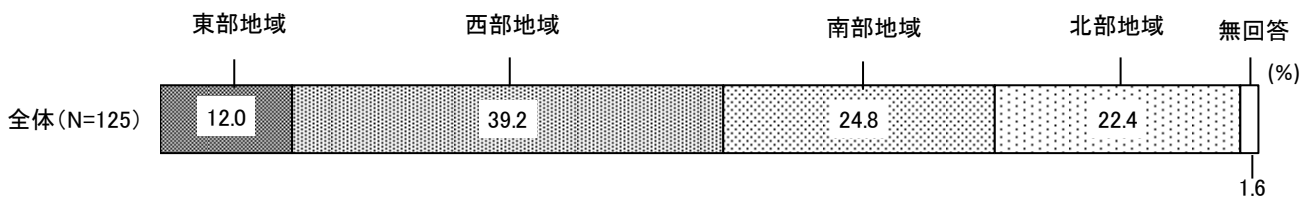
(5) 居住地域（問5）

問5 お住まいの地域はどこですか。

記入例を参考に【町名】、【丁目】をご記入ください。

- 「西部地域 (39.2%)」が最も多く、「南部地域 (24.8%)」、「北部地域 (22.4%)」が続いている。

図表 5-8 居住地域（全体）



(6) 避難所などになっている小学校（問5-1）

問5-1 お住まいの近くにある、避難所などになっている公立小学校はどれですか。

(1つに○)

- 住まいの近くの避難所などになっている公立小学校は、いずれかの小学校を答えた人は94.4%で、「分からない」は5.6%である。

図表 5-9 避難所などになっている小学校（全体）

	東部地域				西部地域						
	緑ヶ丘小学校	若葉小学校	調和小学校	滝坂小学校	石原小学校	第三小学校	飛田給小学校	第一小学校	富士見台小学校	多摩川小学校	
全体 (N=125)	0.8	5.6	4.0	0.8	4.8	4.0	8.0	8.0	8.0	4.0	

	南部地域				北部地域							
	八雲台小学校	国領小学校	布田小学校	杉森小学校	第二小学校	染地小学校	上ノ原小学校	深大寺小学校	北ノ台小学校	柏野小学校	分からない	無回答
全体 (N=125)	7.2	4.0	1.6	6.4	3.2	2.4	9.6	2.4	6.4	3.2	5.6	0.0

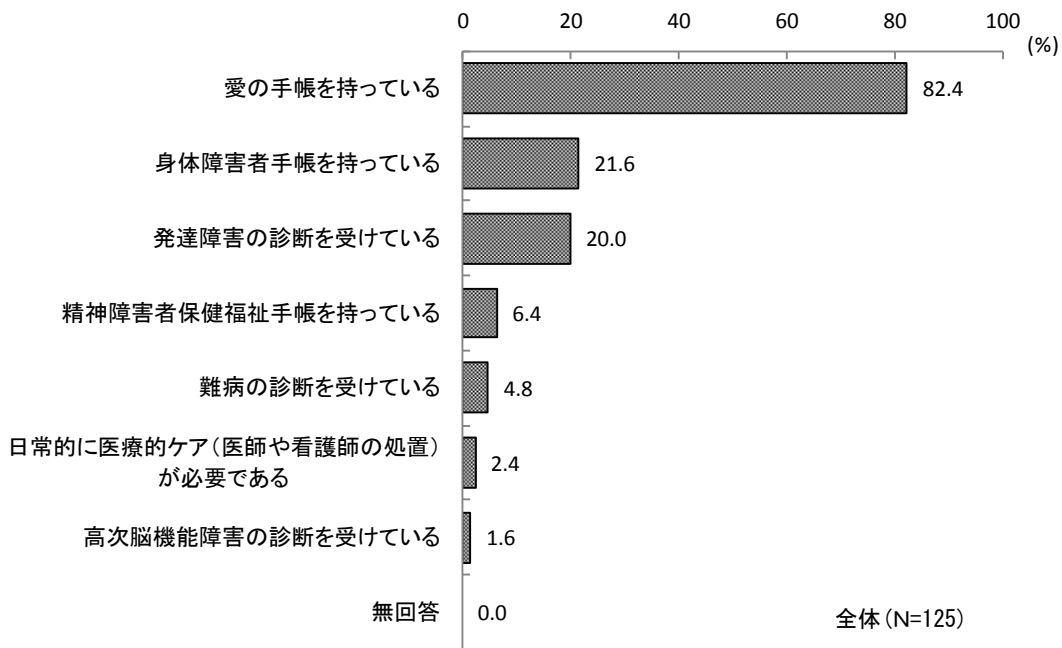
(%)

（7）持っている手帳の種類と等級（問6）

問6 お子さまがお持ちの手帳または受けている診断名などについて、あてはまるものすべてに○をしてください。また、手帳の等級と診断名をご記入ください。

○ 持っている手帳の種類は、「愛の手帳を持っている（82.4%）」が最も多く、「身体障害者手帳を持っている（21.6%）」、「発達障害の診断を受けている（20.0%）」が続いている。

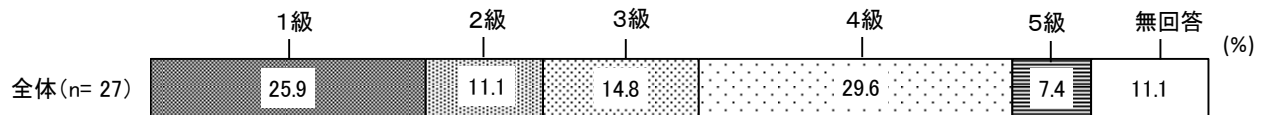
図表 5-10 持っている手帳の種類（全体：複数回答）



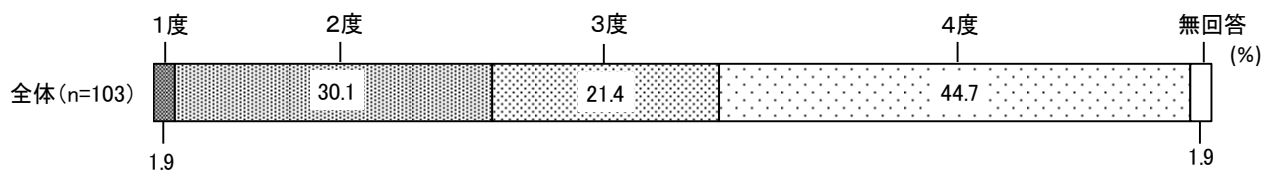
○ 手帳の等級は、身体障害者手帳では「4級（29.6%）」が最も多くなっている。愛の手帳では「4度（44.7%）」が最も多くなっている。

図表 5-11 持っている手帳の等級（全体）

【身体障害者手帳】



【愛の手帳】



【精神障害者手帳】

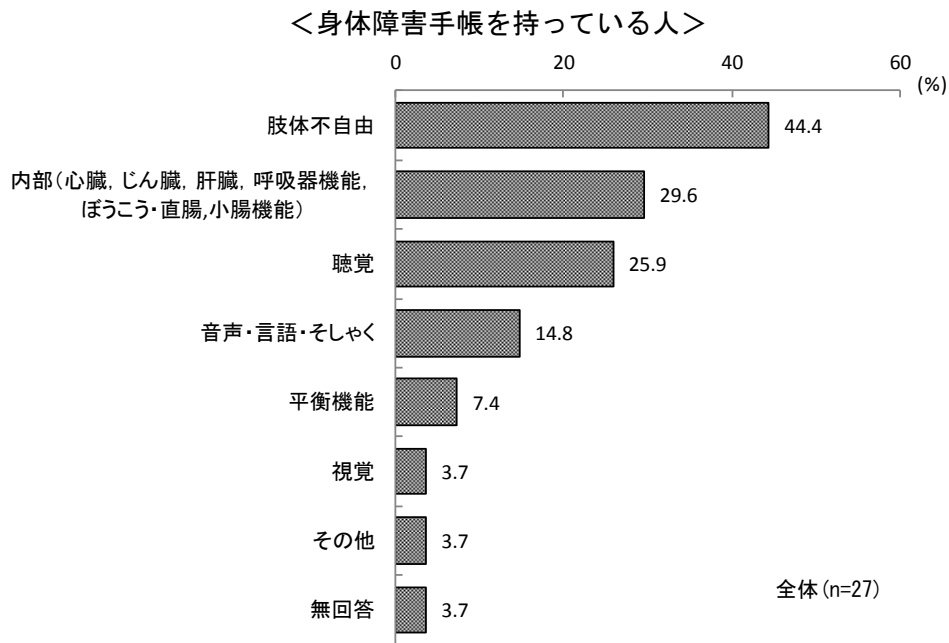


(8) 障害の部位 (問6-1)

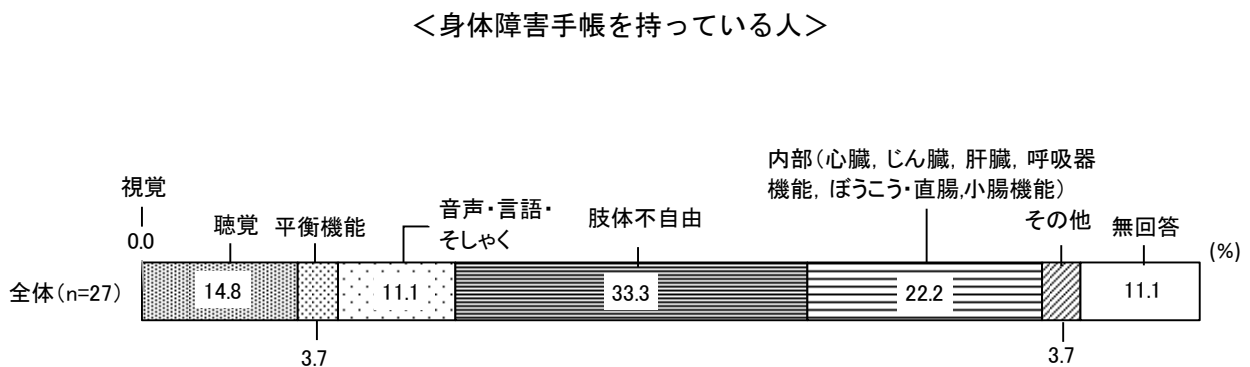
問6-1 問6で「1. 身体障害者手帳を持っている」と答えた方におたずねします。障害の部位はどれですか。(いくつでも○)  
また、○をしたもののうち、主な障害を1つだけ選び◎をしてください。

- 身体障害者手帳を持っていると答えた方に**障害の部位**をたずねたところ、「肢体不自由 (44.4%)」が最も多く、「内部 (心臓, じん臓, 肝臓, 呼吸器機能, ぼうこう・直腸, 小腸機能) (29.6%)」, 「聴覚 (25.9%)」が続いている。
- **主な障害の部位**も同様に, 「肢体不自由 (33.3%)」が最も多く, 「内部 (心臓, じん臓, 肝臓, 呼吸器機能, ぼうこう・直腸, 小腸機能) (22.2%)」, 「聴覚 (14.8%)」が続いている。

図表 5-12 障害の部位 (全体: 複数回答)



図表 5-13 障害の部位 (主な障害) (全体)



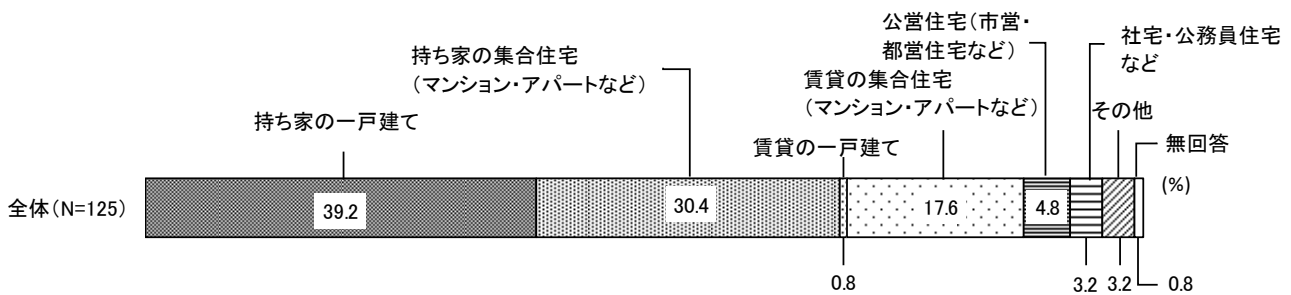
## 2 住まいや居留意向

### (1) 住居形態 (問7)

問7 あなたのお住まいは、次のどれですか。(1つに○)

- 全体では、「持ち家の一戸建て (39.2%)」が最も多く、「持ち家の集合住宅 (マンション、アパートなど) (30.4%)」, 「賃貸の集合住宅 (マンション・アパートなど) (17.6%)」が続いている。
- 地域別にみると、東部地域では「持ち家の一戸建て」が5割を超えており、南部地域では「賃貸の集合住宅 (マンション・アパートなど)」が3割を超えており、全体より高くなっている。

図表 5-14 住居形態 (全体)



図表 5-15 住居形態 (全体, 地域別)

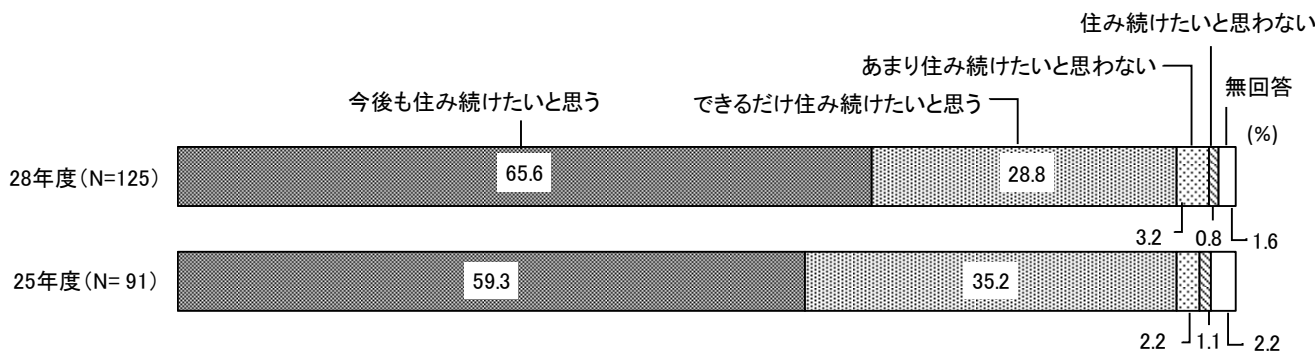
		(%)							
		持ち家の一戸建て	持ち家の集合住宅 (マンション・アパートなど)	賃貸の一戸建て	賃貸の集合住宅 (マンション・アパートなど)	公営住宅 (市営・都営住宅など)	社宅・公務員住宅など	その他	無回答
全	体 (N=125)	39.2	30.4	0.8	17.6	4.8	3.2	3.2	0.8
地域別	東部地域 (n= 15)	53.3	40.0	6.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	西部地域 (n= 49)	38.8	26.5	0.0	20.4	4.1	6.1	4.1	0.0
	南部地域 (n= 31)	32.3	25.8	0.0	32.3	6.5	0.0	3.2	0.0
	北部地域 (n= 28)	39.3	39.3	0.0	7.1	7.1	3.6	3.6	0.0

(2) 居留意向 (問8)

問8 あなたは、今後も調布市に住み続けたいと思いますか。(1つに○)

- 全体では、「今後も住み続けたいと思う (65.6%)」が最も多く、「できるだけ住み続けたいと思う」が28.8%となっており、住み続けたいと思う傾向が伺える。
- 年代別にみると、「今後も住み続けたい」の割合は、6歳以上15歳未満で72.3%と最も高く、6歳未満で42.9%と最も低くなっており、年代で考え方が異なる傾向がうかがえる。
- 地域別にみると、西部地域と南部地域では「今後も住み続けたいと思う (西部：69.4%，南部：71.0%)」が全体より高くなっている。
- 経年で比較すると、28年度は25年度と比べると、「今後も住み続けたいと思う」が6.3ポイント高くなっており、「できるだけ住み続けたいと思う」が6.4ポイント低くなっている。

図表 5-16 居留意向 (全体) 【経年比較】



図表 5-17 居留意向 (全体, 年代別, 地域別)

		い今	けで	いあ	わ住	無
		と後	たき	とま	なみ	回
		思も	いる	思り	なみ	答
		う住	とだ	わ住	い続	
		み続	思け	なみ	け	
		けた	う住	い続	た	
		た	み続	け	思	
全	体 (N=125)	65.6	28.8	3.2	0.8	1.6
年	6歳未満 (n= 14)	42.9	57.1	0.0	0.0	0.0
	6歳以上15歳未満 (n= 65)	72.3	21.5	3.1	1.5	1.5
	15歳以上 (n= 40)	65.0	27.5	5.0	0.0	2.5
地	東部地域 (n= 15)	60.0	26.7	0.0	0.0	13.3
	西部地域 (n= 49)	69.4	24.5	4.1	2.0	0.0
	南部地域 (n= 31)	71.0	29.0	0.0	0.0	0.0
	北部地域 (n= 28)	57.1	35.7	7.1	0.0	0.0

(3) 居住意向の理由(問8-1)

問8-1 問8で答えた理由を下の欄にご記入ください。

- 問8で、居住意向について回答いただいた方に居住意向の理由をたずねた。以下、主な理由を掲載する。
- 居住意向のある人は、「持ち家があるから」、「慣れた環境であるから」、「環境がよい」、「自然が豊か」、「住みやすい」、「福祉が充実している」、「引っ越す理由がない」などの意見があげられた。
- 居住意向のない人は、「家賃が高い」、「実家が東京ではないから」、「Iターン希望のため」、「子どもの医療費が中学生から全額負担になるから」などの意見があげられた。



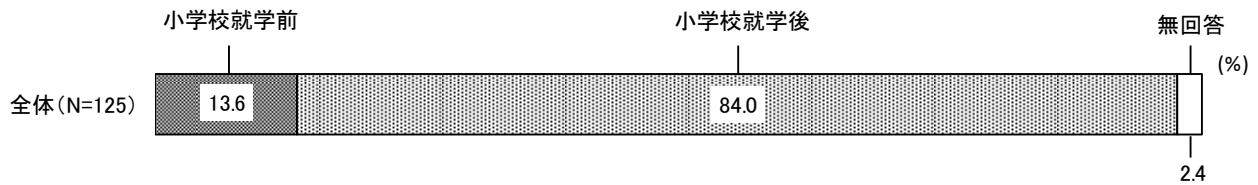
### 3 日常生活

#### (1) 子どもの学齢 (問9)

問9 お子さまの学齢は、次のうちどれにあたりますか。(1つに○)

- 子どもの学齢は、「小学校就学前 (13.6%)」、「小学校就学後 (84.0%)」となっている。

図表 5-18 子どもの学齢 (全体)



#### (2) 日中の過ごし方 (問10, 問10-1, 問10-2, 問10-3)

問10 お子さまは、日中どのように過ごしていますか。

小学校就学前のお子さまは 問10-1

小学校就学後のお子さまは 問10-2, 問10-3にお答えください。

問10-1 小学校就学前のお子さまについておたずねします。

お子さまは、日中主にどこに通園・通所していますか。(いくつでも○)

問10-2 小学校就学後のお子さまについておたずねします。

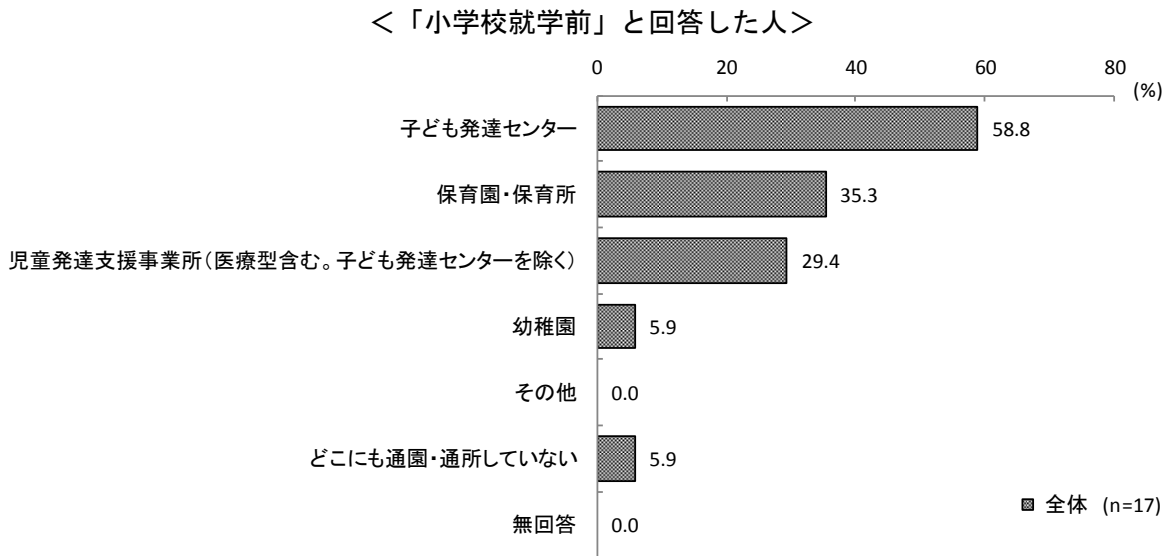
お子さまが現在通学している学校・学級は、次のうちどれですか。(1つに○)

問10-3 お子さまは現在、学校以外の時間でどのようなサービス、施設等を利用して過ごしていますか。(いくつでも○)

① 小学校就学前の子どもの日中の過ごし方（問 10-1）

○全体では、「子ども発達センター（58.8%）」が最も多く、「保育園・保育所（35.3%）」、「児童発達支援事業所（医療型含む。子ども発達センターを除く）（29.4%）」が続いている。

図表 5-19 日中の過ごし方（小学校就学前：日中に主に通園・通所しているところ）  
（全体：複数回答）



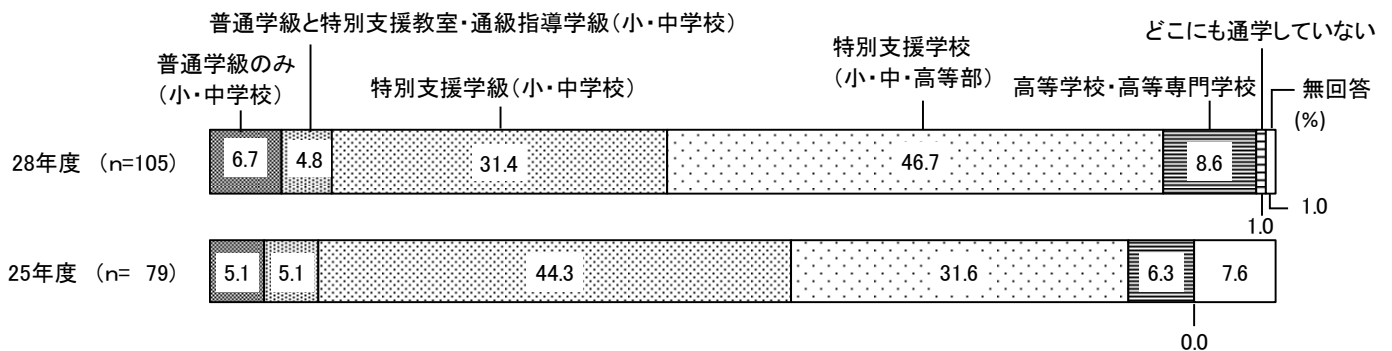
② 小学校就学後の子どもの通学している学校・学級（問 10-2）

○全体では、「特別支援学校（小・中・高等部）（46.7%）」が最も多く、「特別支援学級（小・中学校）（31.4%）」、「高等学校・高等専門学校（8.6%）」が続いている。

○経年で比較すると、28年度は25年度と比べると、「特別支援学校（小・中・高等部）」では15.1ポイント高くなっており、「特別支援学級（小・中学校）」では12.9ポイント低くなっている。

図表 5-20 日中の過ごし方（小学校就学後：現在通学している学校・学級）（全体）【経年比較】

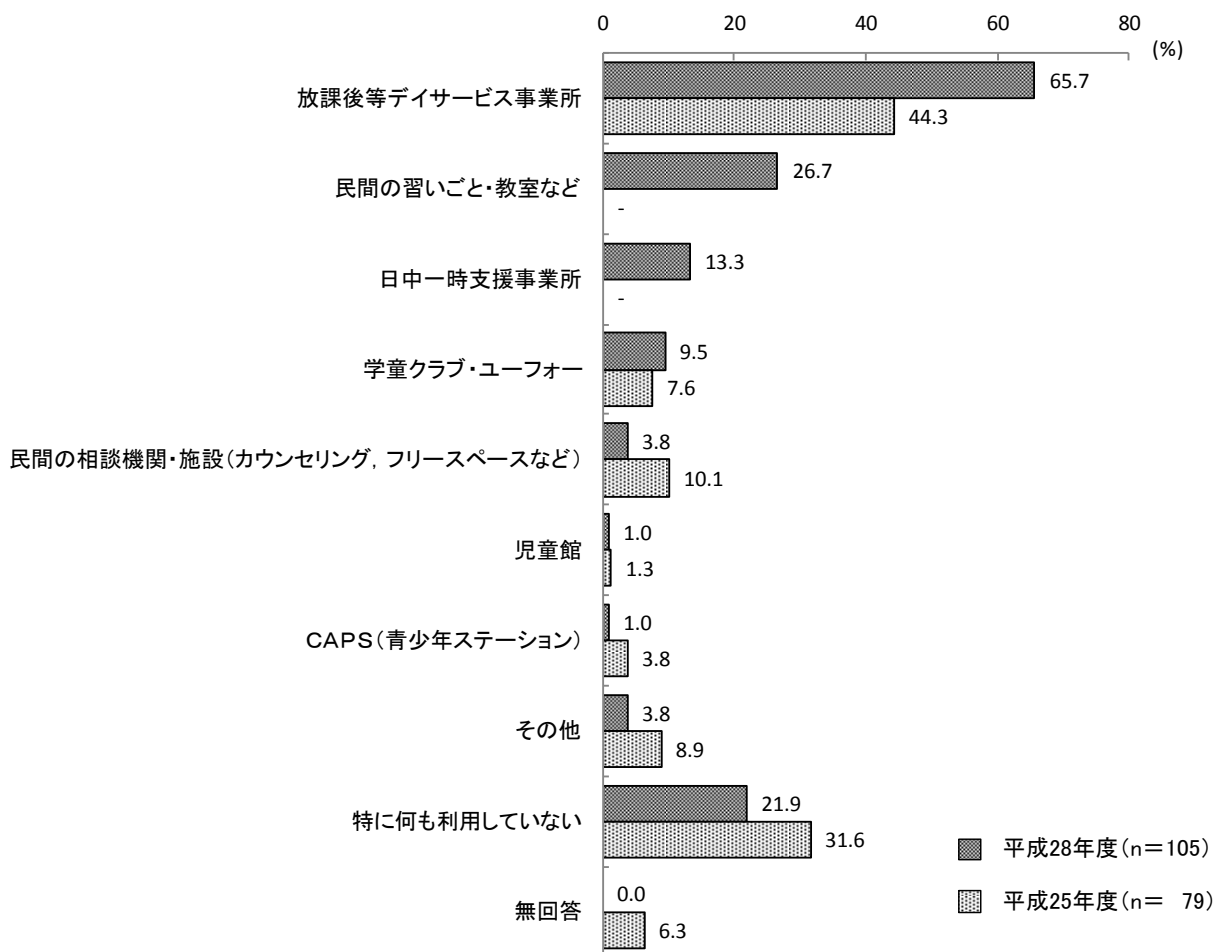
＜「小学校就学後」と回答した人＞



③ 学校以外のサービス，施設等の利用（問 10-3）

- 全体では、「放課後等デイサービス事業所（65.7%）」が最も多く、「民間の習いごと・教室など（26.7%）」、「日中一時支援事業所（13.3%）」が続いている。また、「特に何も利用していない」は21.9%である。
- 経年で比較すると、28年度は25年度と比べると、「放課後等デイサービス事業所」の割合は21.4ポイント高くなっており、「民間の相談機関・施設（カウンセリング，フリースペースなど）」の割合は6.3ポイント低くなっている。また、「特に何も利用していない」では、9.7ポイント低くなっている。

図表 5-21 学校以外で利用するサービス，施設  
 （小学校就学後：学校以外の時間で利用しているサービス・施設）  
 （全体：複数回答）【経年比較】  
 <「小学校就学後」と回答した人>



（3）保育園・幼稚園，学校以外での活動の機会の有無（問11）

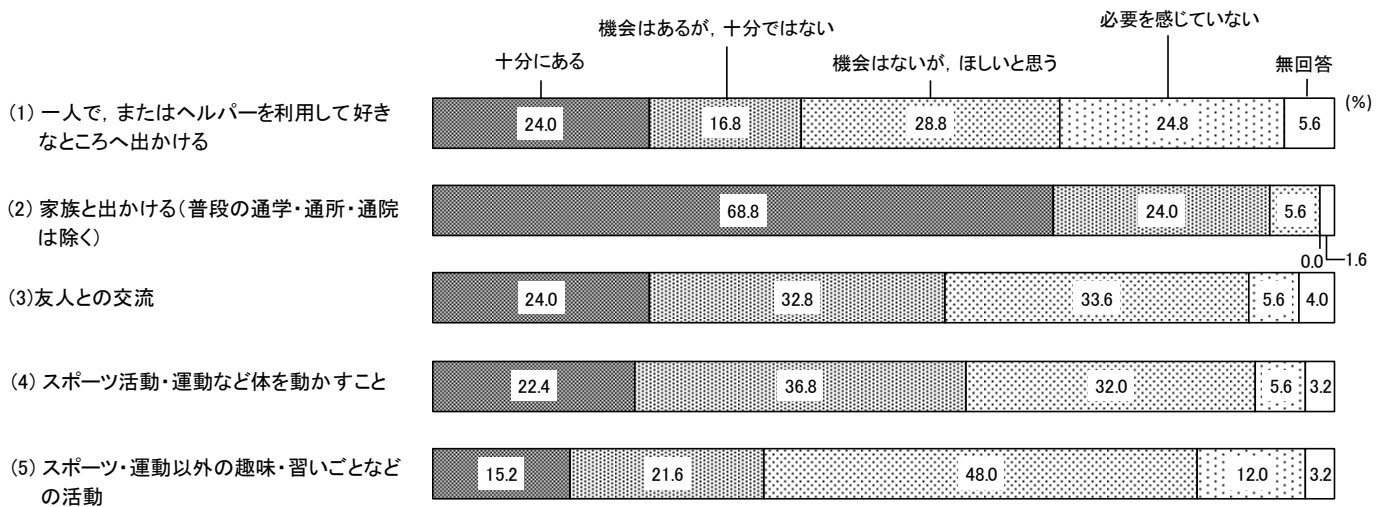
問11 保育園・幼稚園，または学校以外に，お子さまは普段の生活の中で以下のような活動を行う，または活動に参加する機会がありますか。

（注）問10-3でお答えいただいた学校以外の時間で利用しているサービス，施設等での活動を含みます。

（1）～（5）について，それぞれ1つに○をつけてください。

- 保育園・幼稚園，学校以外での活動の機会の有無については，「十分にある」と「機会はあるが，十分ではない」を合わせた《機会はある》の割合は，『家族と出かける（普段の通学・通所・通院は除く）』が9割を超え，『スポーツ活動・運動など体を動かすこと』が6割程度，『友人との交流』が5割を超えている。一方，『一人で，またはヘルパーを利用して好きなどころへ出かける』と『スポーツ・運動以外の趣味・習いごとなどの活動』は3～4割に留まっている。

図表 5-22 保育園・幼稚園，学校以外での活動の機会の有無（全体）



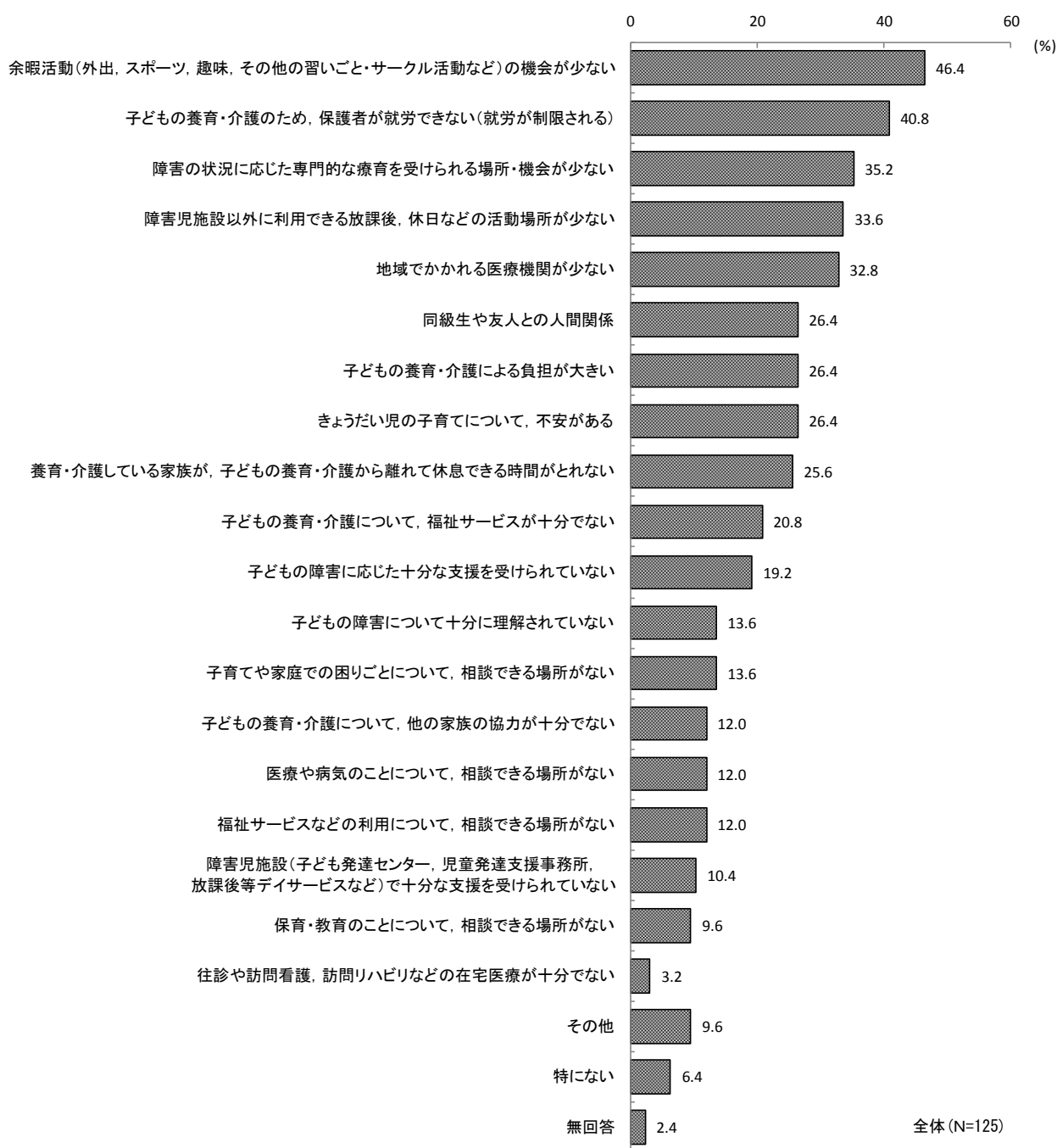
(4) 保護者が感じている地域の暮らしの中での不安や課題 (問 12)

問 12 お子さまの日常生活に関して、不安や課題と感じていることはありますか。

(いくつでも○)

- **全体**では、「余暇活動（外出，スポーツ，趣味，その他の習いごと・サークル活動など）の機会が少ない（46.4%）」が最も多く、「子どもの養育・介護のため，保護者が就労できない（就労が制限される）（40.8%）」，「障害の状況に応じた専門的な療育を受けられる場所・機会が少ない（35.2%）」が続いている。
- **年代別**にみると，6歳未満は，「子どもの養育・介護のため，保護者が就労できない（就労が制限される）」が8割程度，「養育・介護している家族が，子どもの養育・介護から離れて休息できる時間が取れない」が4割を超え，全体より高くなっている。
- **地域別**にみると，東部地域では「養育・介護している家族が，子どもの養育・介護から離れて休息できる時間が取れない」が4割，「福祉サービスなどの利用について，相談できる場所がない」が2割を超え，全体より高くなっている。南部地域では「子どもの養育・介護のため，保護者が就労できない（就労が制限される）」が5割程度，「障害の状況に応じた専門的な療育を受けられる場所・機会が少ない」，「地域でかけられる医療機関が少ない」が4割を超え，「障害児施設（子ども発達センター，児童発達支援事業所，放課後等デイサービスなど）で十分な支援を受けられていない」が2割を超え，全体より高くなっている。北部地域では「余暇活動（外出，スポーツ，趣味，その他の習いごと・サークル活動など）の機会が少ない」が6割程度，「きょうだい児の子育てについて，不安がある」，「同級生や友人との人間関係」が3割を超え，全体より高くなっており，地域によって不安や課題が異なっている様子がうかがえる。

図表 5-23 保護者が感じている地域の暮らしの中での不安や課題（全体：複数回答）



II アンケート調査の結果

図表 5-24 保護者が感じている地域の暮らしの中での不安や課題  
(全体、年代別、地域別：複数回答)

		子どもが感じている不安や課題	子どもが感じている不安や課題	同級生や友人との人間関係	保育・教育の場がない	障害の状況に合わせた専門的療育を受けられない	課後等デイサービスなどでの十分な支援を受けられない	障害児施設（子ども発達センター、児童発達支援事務所、放課後等デイサービスなど）での十分な支援を受けられない	障害児施設以外に利用できる放課後、休日などの活動場が少ない	余暇活動（外出、スポーツ、趣味、その他の習いごと・サークル活動など）の機会が少ない
全体	(N=125)	13.6	19.2	26.4	9.6	35.2	10.4	33.6	46.4	
年代別	6歳未満 (n=14)	21.4	14.3	7.1	7.1	42.9	14.3	21.4	35.7	
	6歳以上15歳未満 (n=65)	15.4	21.5	29.2	12.3	43.1	12.3	35.4	50.8	
	15歳以上 (n=40)	10.0	15.0	30.0	7.5	20.0	7.5	35.0	42.5	
地域別	東部地域 (n=15)	13.3	13.3	13.3	13.3	33.3	6.7	26.7	53.3	
	西部地域 (n=49)	6.1	20.4	22.4	8.2	28.6	10.2	32.7	40.8	
	南部地域 (n=31)	19.4	19.4	32.3	9.7	45.2	22.6	32.3	38.7	
	北部地域 (n=28)	21.4	17.9	35.7	7.1	39.3	0.0	39.3	60.7	

		子どもが感じている不安や課題	子どもが感じている不安や課題	子どもの養育・介護に十分な時間・介護がとれない	他の家族の協力が十分でない	子育ての不安がある	子育てや家庭での困りごとについて、相談できる場がない	地域でかけられる医療機関が少ない	往診や訪問看護、訪問リハビリなどの在宅医療が十分でない
全体	(N=125)	26.4	40.8	25.6	12.0	26.4	13.6	32.8	3.2
年代別	6歳未満 (n=14)	35.7	78.6	42.9	0.0	28.6	0.0	21.4	14.3
	6歳以上15歳未満 (n=65)	27.7	35.4	26.2	15.4	26.2	15.4	35.4	3.1
	15歳以上 (n=40)	22.5	37.5	17.5	10.0	27.5	15.0	37.5	0.0
地域別	東部地域 (n=15)	33.3	40.0	40.0	6.7	20.0	13.3	20.0	6.7
	西部地域 (n=49)	26.5	34.7	22.4	10.2	24.5	12.2	30.6	6.1
	南部地域 (n=31)	32.3	51.6	25.8	19.4	25.8	19.4	45.2	0.0
	北部地域 (n=28)	14.3	42.9	25.0	10.7	35.7	10.7	28.6	0.0

		医療や病気の場がない	福祉サービスの養育・介護に十分な場がない	福祉サービスの利用に十分な場がない	その他	特になし	無回答
全体	(N=125)	12.0	20.8	12.0	9.6	6.4	2.4
年代別	6歳未満 (n=14)	7.1	14.3	0.0	7.1	0.0	0.0
	6歳以上15歳未満 (n=65)	12.3	20.0	15.4	6.2	1.5	1.5
	15歳以上 (n=40)	12.5	25.0	12.5	15.0	12.5	5.0
地域別	東部地域 (n=15)	20.0	13.3	26.7	0.0	0.0	0.0
	西部地域 (n=49)	8.2	24.5	12.2	10.2	12.2	2.0
	南部地域 (n=31)	19.4	25.8	6.5	12.9	0.0	3.2
	北部地域 (n=28)	7.1	10.7	7.1	10.7	3.6	3.6

（5）困ったときの身近な相談相手（問13）

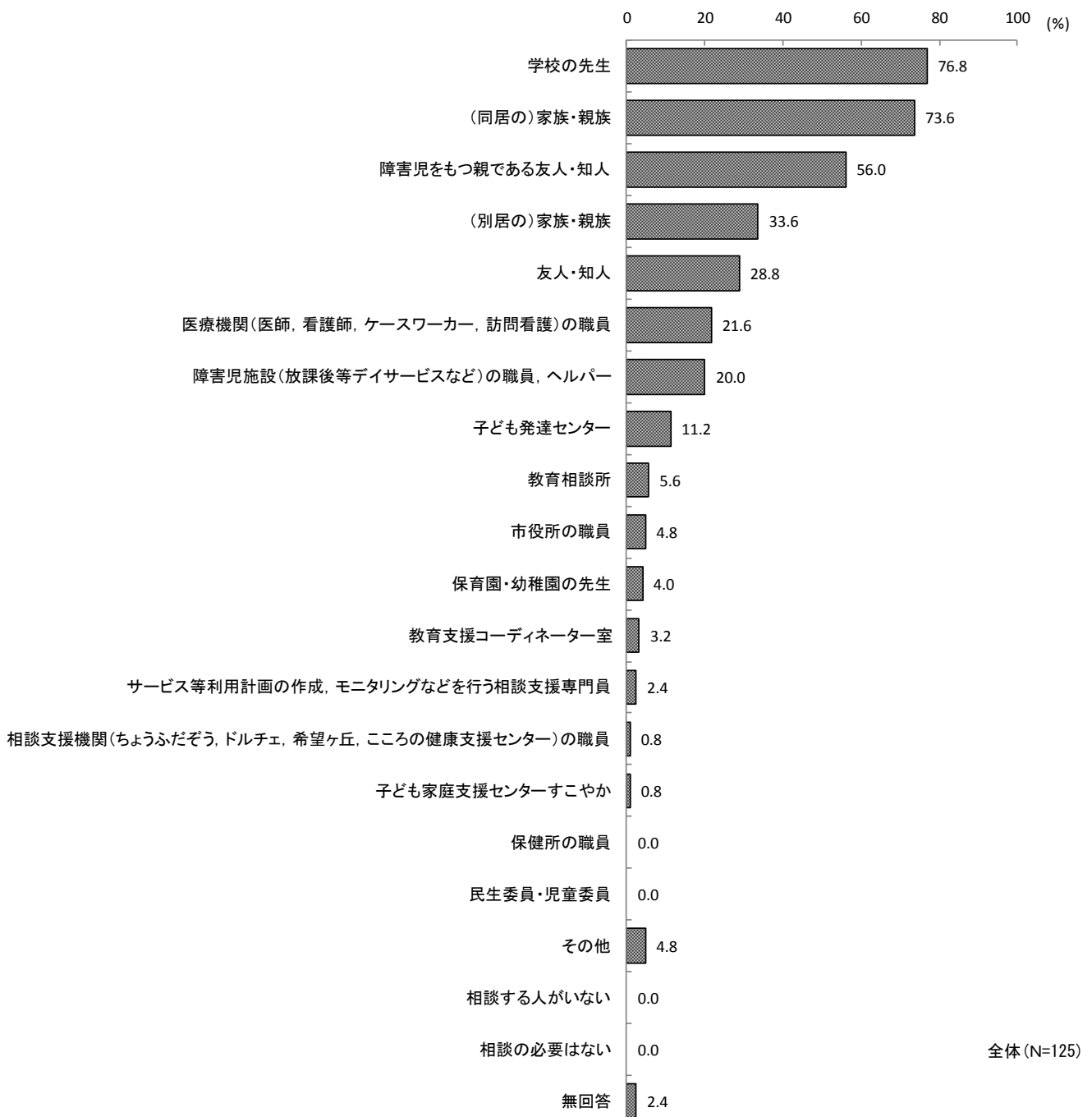
問13 あなたは、お子さまについて悩みや困ったことがある場合、主にどなたに相談しますか。（1）～（4）について、それぞれ下の欄から5つまで選び、に番号をご記入ください。

① 保育園・幼稚園・学校でのこと

- 全体では、「学校の先生（76.8%）」が最も多く、「（同居の）家族・親族（73.6%）」、「障害児をもつ親である友人・知人（56.0%）」が続いている。

図表 5-25 困ったときの身近な相談相手（保育園・幼稚園・学校でのこと）

（全体：複数回答（5つまで））

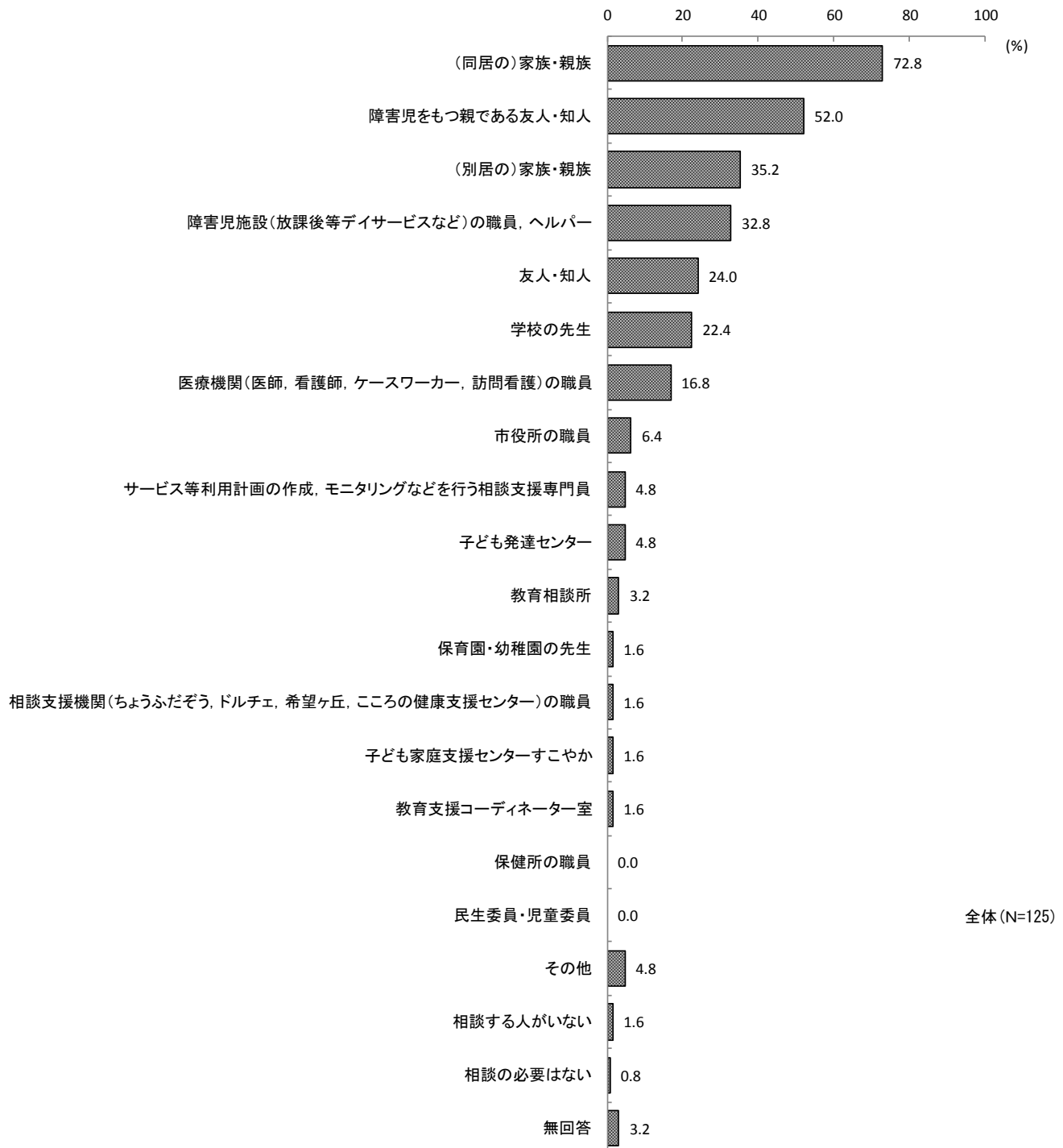




② 保育園・幼稚園・学校以外での活動のこと

- 全体では、「(同居の) 家族・親族 (72.8%)」が最も多く、「障害児をもつ親である友人・知人 (52.0%)」, 「(別居の) 家族・親族 (35.2%)」が続いている。

図表 5-26 困ったときの身近な相談相手 (保育園・幼稚園・学校以外での活動のこと)  
(全体：複数回答 (5つまで))

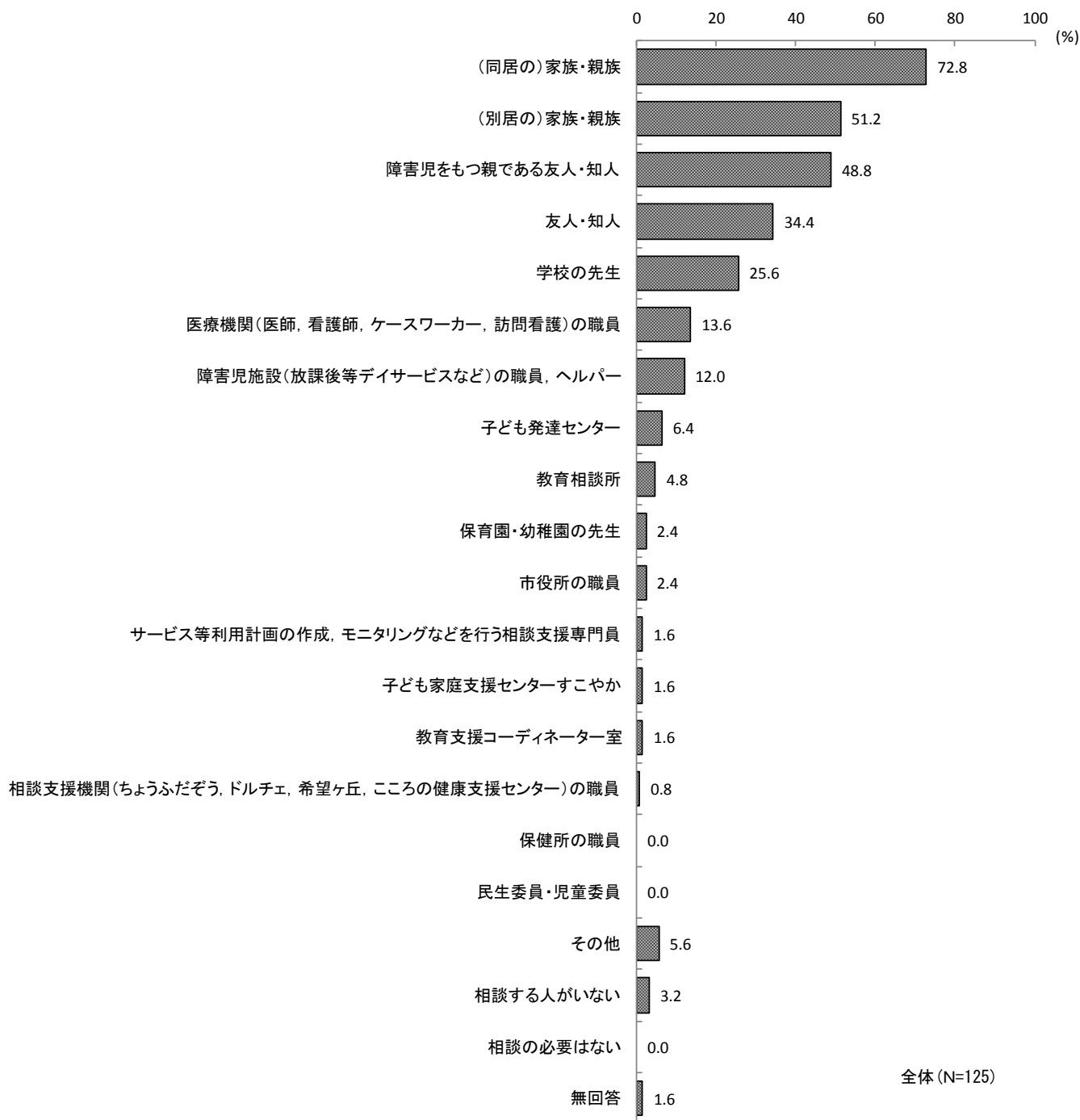


③ 家庭・子育てのこと

- 全体では、「(同居の) 家族・親族 (72.8%)」が最も多く、「(別居の) 家族・親族 (51.2%)」, 「障害児をもつ親である友人・知人 (48.8%)」が続いている。

図表 5-27 困ったときの身近な相談相手（家庭・子育てのこと）

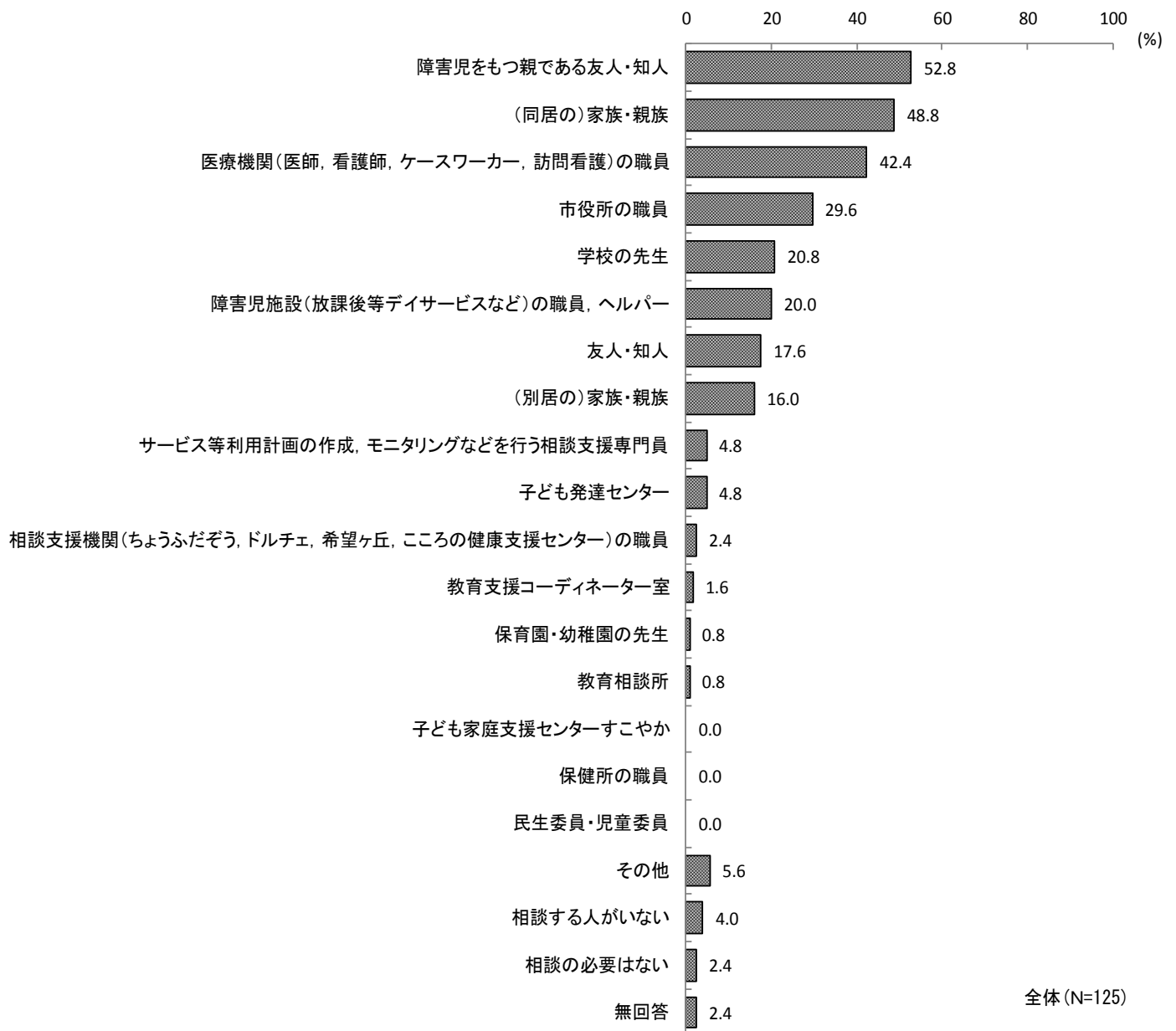
（全体：複数回答（5つまで））



④ 医療・福祉サービスのこと

- 全体では、「障害児をもつ親である友人・知人（52.8%）」が最も多く、「（同居の）家族・親族（48.8%）」、「医療機関（医師，看護師，ケースワーカー，訪問看護）の職員（42.4%）」が続いている。

図表 5-28 困ったときの身近な相談相手（医療・福祉サービスのこと）  
（全体：複数回答（5つまで））



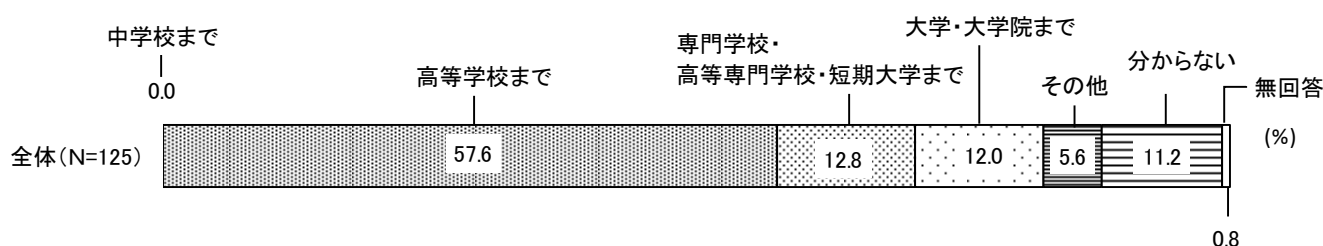
## 4 将来の意向

### （1）進学意向（問14）

問14 あなたは、将来、お子さまにどこまで進学してほしいと考えていますか。（1つに○）

- 子どもの進学の意向は、「高等学校まで（57.6%）」が最も多く、「専門学校・高等専門学校・短期大学まで（12.8%）」、「大学・大学院まで（12.0%）」が続いている。

図表 5-29 進学の意向（全体）



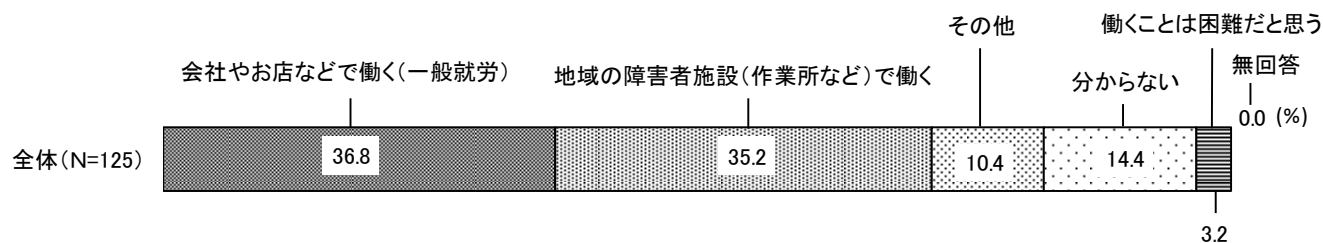
### （2）就労意向（問15）

問15 あなたは、将来、お子さまにどのようなところで働いてほしいと考えていますか。

（1つに○）

- 子どもの就労の意向は、「会社やお店などで働く（一般就労）（36.8%）」が最も多く、「地域の障害者施設（作業所など）で働く（35.2%）」、「分からない（14.4%）」が続いている。

図表 5-30 就労意向（全体）

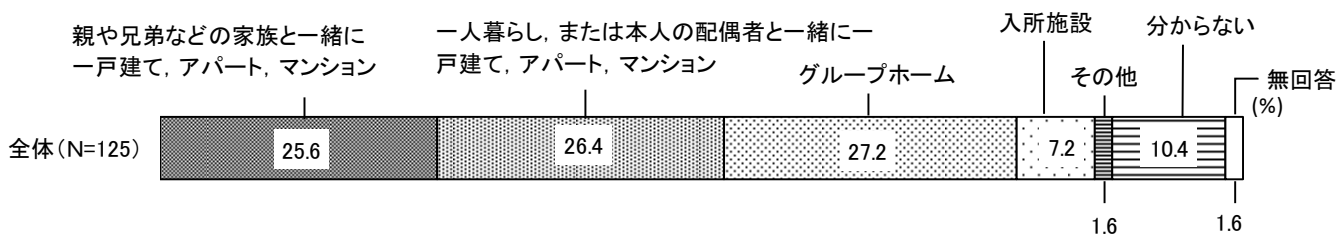


(3) 今後の居住形態の意向 (問 16)

問 16 あなたは将来、お子さまがどのような住まいで生活することを望みますか。(1つに○)

- 全体では、「グループホーム (27.2%)」が最も多く、「一人暮らし、または本人の配偶者と一緒の一戸建て、アパート、マンション (26.4%)」、「親や兄弟などの家族と一緒に一戸建て、アパート、マンション (25.6%)」が続いている。
- 年代別にみると、6歳未満では「一人暮らし、または本人の配偶者と一緒の一戸建て、アパート、マンション (42.9%)」、15歳以上では「グループホーム (37.5%)」が全体より10ポイント以上高くなっており、年代で考え方が異なる様子がうかがえる。
- 地域別にみると、東部地域では「一人暮らし、または本人の配偶者と一緒の一戸建て、アパート、マンション (40.0%)」、南部地域では「親や兄弟などの家族と一緒に一戸建て、アパート、マンション (35.5%)」が全体より10ポイント程度高くなっている。

図表 5-31 今後の居住形態の意向 (全体)



図表 5-32 今後の居住形態の意向 (全体, 年代別, 地域別)

		親や兄弟などの家族と一緒に一戸建て、アパート、マンション	一人暮らし、または本人の配偶者と一緒の一戸建て、アパート、マンション	グループホーム	入所施設	その他	分からない	無回答
全	体 (N=125)	25.6	26.4	27.2	7.2	1.6	10.4	1.6
年 代 別	6歳未満 (n=14)	21.4	42.9	14.3	7.1	0.0	14.3	0.0
	6歳以上15歳未満 (n=65)	29.2	23.1	21.5	9.2	3.1	12.3	1.5
	15歳以上 (n=40)	20.0	27.5	37.5	5.0	0.0	7.5	2.5
地 域 別	東部地域 (n=15)	20.0	40.0	6.7	13.3	0.0	13.3	6.7
	西部地域 (n=49)	26.5	22.4	32.7	6.1	2.0	10.2	0.0
	南部地域 (n=31)	35.5	19.4	22.6	9.7	3.2	9.7	0.0
	北部地域 (n=28)	17.9	32.1	32.1	3.6	0.0	10.7	3.6

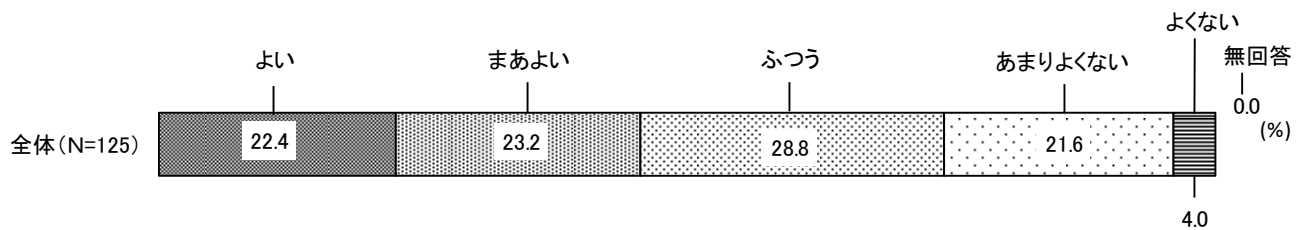
## 5 保護者の状況

### （1）保護者の健康状況（問17）

問17 あなたは、ご自分の健康状態をどのように感じていますか。（1つに○）

- 保護者の健康状況は、「まあよい（23.2%）」と「よい（22.4%）」を合わせた《よい》は45.6%、「あまりよくない（21.6%）」と「よくない（4.0%）」を合わせた《よくない》は25.6%となっている。

図表 5-33 保護者の健康状況（全体）

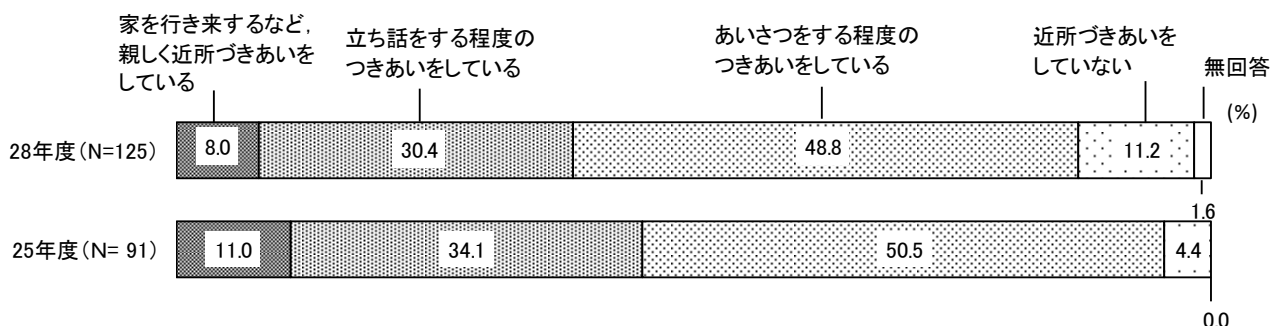


### （2）近所づきあいの状況（問18）

問18 あなたは、日ごろどのような近所づきあいをしていますか。（1つに○）

- 全体では、「あいさつをする程度のつきあいをしている（48.8%）」が最も多く、「立ち話をする程度のつきあいをしている（30.4%）」が続いている。「近所づきあいをしていない」は、11.2%となっている。
- 年代別にみると「近所づきあいをしていない」の割合が、6歳未満で28.6%と最も高く、15歳以上で7.5%と最も低くなっている。
- 地域別にみると、「近所づきあいをしていない」の割合が、東部地域と南部地域では20.0%、19.4%となっており、全体より高くなっている。
- 経年で比較すると、28年度は25年度と比べると、「家を行き来するなど、親しく近所づきあいをしている」、「立ち話をする程度のつきあいをしている」、「あいさつをする程度のつきあいをしている」の割合が低くなっており、「近所づきあいをしていない」の割合が6.8ポイント高くなっている。前回調査より、近所づきあいをしていない様子が見え始める。

図表 5-34 近所づきあいの状況（全体）【経年比較】



図表 5-35 近所づきあいの状況（全体，年代別，地域別）

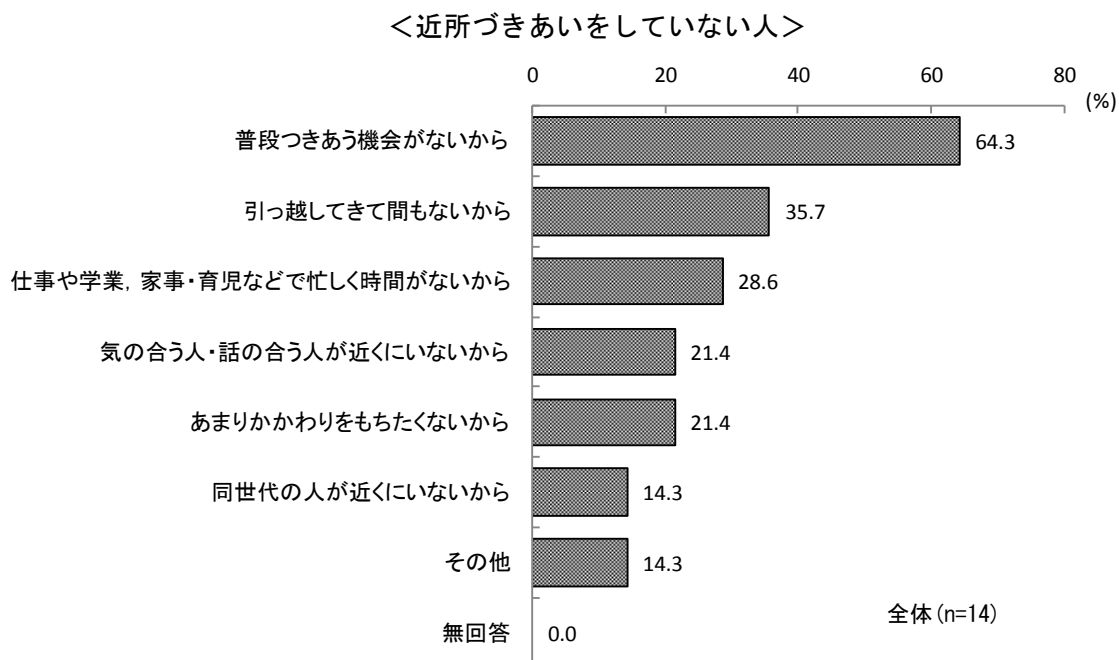
		(%)				
		し親家を て行く近 る所づ きあ いを、	つ立ち きあ 話を する 程 度 の	つあ いさ いを する 程 度 の	し近 所づ きあ いを	無 回 答
全	体 (N=125)	8.0	30.4	48.8	11.2	1.6
年 代 別	6歳未満 (n= 14)	14.3	14.3	42.9	28.6	0.0
	6歳以上15歳未満 (n= 65)	7.7	30.8	49.2	10.8	1.5
	15歳以上 (n= 40)	7.5	37.5	45.0	7.5	2.5
地 域 別	東部地域 (n= 15)	13.3	13.3	53.3	20.0	0.0
	西部地域 (n= 49)	10.2	20.4	61.2	8.2	0.0
	南部地域 (n= 31)	6.5	35.5	35.5	19.4	3.2
	北部地域 (n= 28)	3.6	50.0	39.3	3.6	3.6

(3) 近所づきあいをしていない理由（問 18-1）

問 18-1 問 18 で「4. 近所づきあいをしていない」と答えた方におたずねします。  
近所づきあいをしていない主な理由は何ですか。（いくつでも○）

- 近所づきあいをしていない人に、近所づきあいをしていない主な理由をたずねたところ、「普段つきあう機会がないから（64.3%）」が最も多く、「引っ越してきて間もないから（35.7%）」、「仕事や学業，家事・育児などで忙しく時間がないから（28.6%）」が続いている。

図表 5-36 近所づきあいをしていない理由（全体：複数回答）

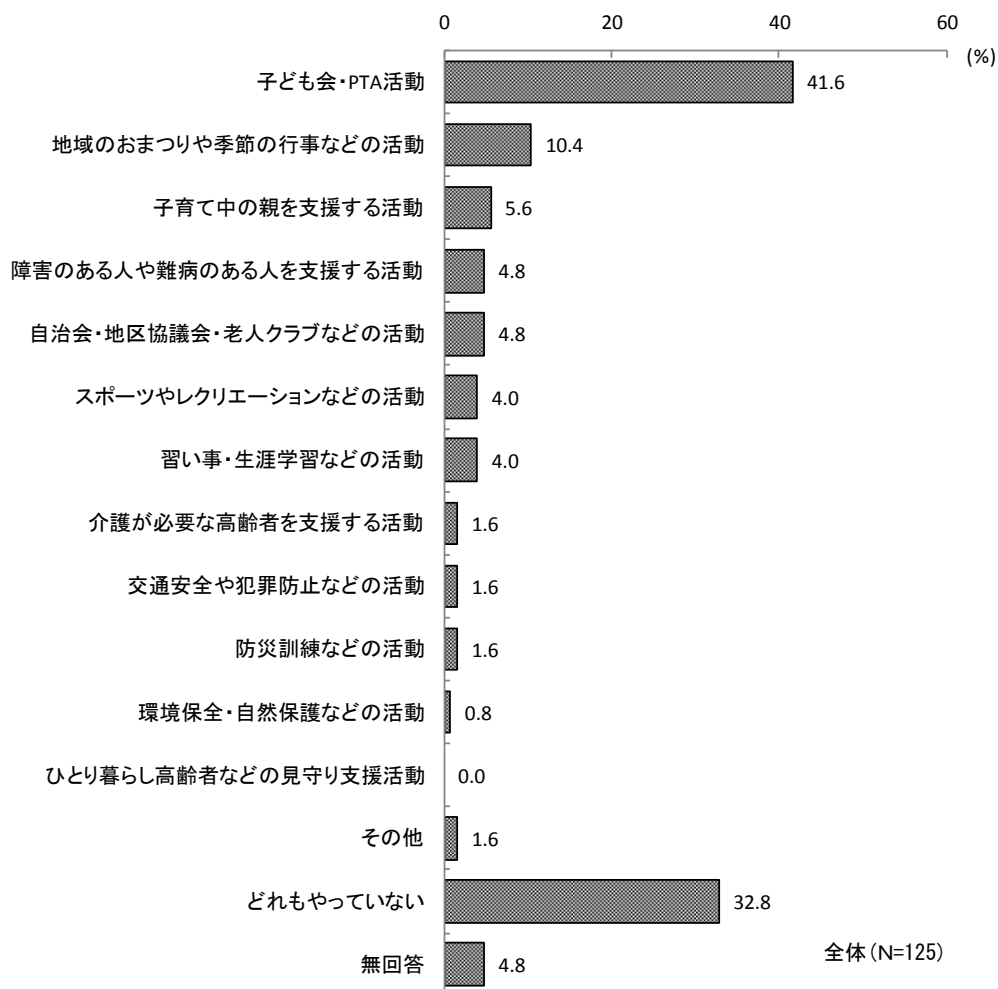


（4）地域活動・ボランティア活動で、やっている活動（問19）

問19 次のような地域活動・ボランティア活動などについて、あなたがやっている活動はありますか。（いくつでも○）

- 全体では、「子ども会・PTA活動（41.6%）」が最も多く、「地域のおまつりや季節の行事などの活動（10.4%）」が続いている。なお、「どれもやっていない」は32.8%である。
- 年代別にみると、6歳未満は「どれもやっていない」が6割を超え、地域活動をしていない様子がうかがえる。6歳以上15歳未満は、「子ども会・PTA活動（53.8%）」、15歳以上は「地域のおまつりや季節の行事などの活動（22.5%）」の割合が全体より高くなっており、子どもの年代によって活動が異なっていることが分かる。

図表 5-37 地域活動・ボランティア活動で、やっている活動（全体：複数回答）





Ⅱ アンケート調査の結果

図表 5-38 地域活動・ボランティア活動で、やっている活動  
(全体, 年代別: 複数回答)

		支子 援育 する 中 の 活 動 親 を	P 子 T A も 活 動 ・	り 支 援 者 な ど の 見 守	活 動 介 護 者 が 必 要 な 高	支 難 障 害 の あ る 人 や	ど や 地 域 の お ま つ り	ど リ ス ポ ー ツ や レ ク シ ョ ン な	習 い 事 の 活 動 学
全	体 (N=125)	5.6	41.6	0.0	1.6	4.8	10.4	4.0	4.0
年 代 別	6歳未満 (n= 14)	7.1	7.1	0.0	7.1	0.0	0.0	7.1	7.1
	6歳以上15歳未満 (n= 65)	6.2	53.8	0.0	1.5	6.2	6.2	4.6	3.1
	15歳以上 (n= 40)	5.0	37.5	0.0	0.0	5.0	22.5	0.0	5.0

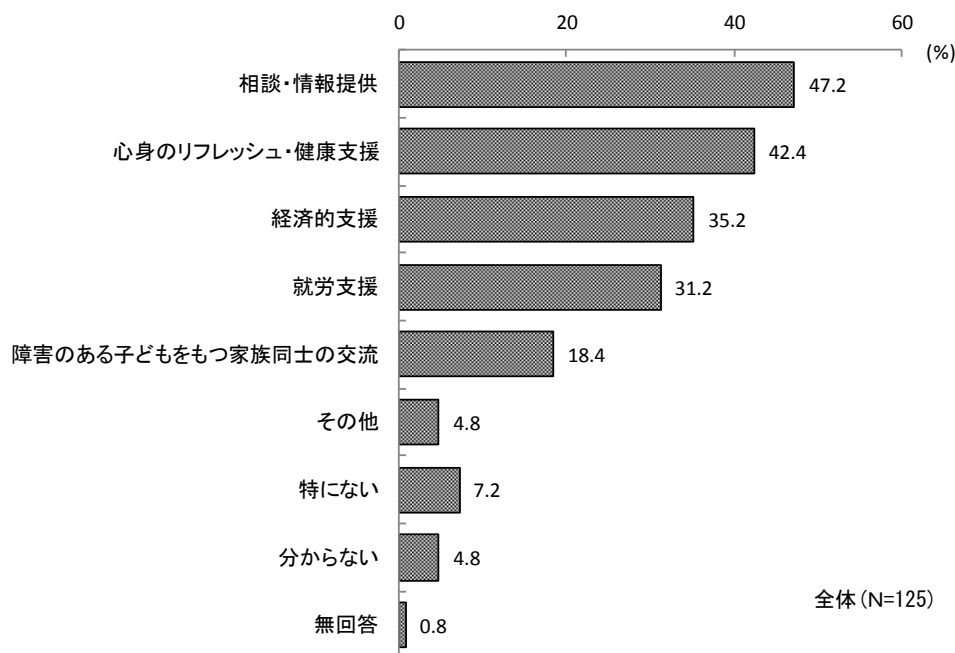
		防 交 通 安 全 の 活 動 犯 罪	活 防 災 訓 練 な ど の	ブ 議 自 治 会 ・ 老 人 地 区 協 ラ	保 環 境 保 全 の 活 動 自 然	そ の 他	な い も や っ て い	無 回 答
全	体 (N=125)	1.6	1.6	4.8	0.8	1.6	32.8	4.8
年 代 別	6歳未満 (n= 14)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	64.3	7.1
	6歳以上15歳未満 (n= 65)	3.1	1.5	3.1	0.0	1.5	27.7	1.5
	15歳以上 (n= 40)	0.0	2.5	10.0	0.0	2.5	27.5	10.0

(5) 保護者の支援に必要なこと (問 20)

問 20 あなた自身が支援してほしいことは何ですか。(いくつでも○)

- 全体では、「相談・情報提供 (47.2%)」が最も多く、「心身のリフレッシュ・健康支援 (42.4%)」、「経済的支援 (35.2%)」が続いている。
- 年代別にみると、6歳未満は「相談・情報提供」が6割を超え、「経済的支援」が5割を超えており、全体より15~20ポイント程度高くなっている。
- 地域別にみると、東部地域では「心身のリフレッシュ・健康支援」が5割を超え、「障害のある子どもをもつ家族同士の交流」が3割を超え、全体より高くなっている。北部地域では「相談・情報提供」が6割を超え、「就労支援」が4割を超え、全体より高くなっており、地域によって必要な支援が異なっている様子がうかがえる。

図表 5-39 保護者の支援に必要なこと (全体：複数回答)



図表 5-40 保護者の支援に必要なこと (全体、年代別、地域別：複数回答)

		相談・情報提供	障害のある子どもをもつ家族同士の交流	心身のリフレッシュ・健康支援	就労支援	経済的支援	その他	特にない	分からない	無回答
全	体 (N=125)	47.2	18.4	42.4	31.2	35.2	4.8	7.2	4.8	0.8
年 代 別	6歳未満 (n= 14)	64.3	21.4	35.7	35.7	57.1	7.1	7.1	0.0	0.0
	6歳以上15歳未満 (n= 65)	44.6	26.2	50.8	33.8	32.3	3.1	4.6	7.7	0.0
	15歳以上 (n= 40)	42.5	7.5	35.0	27.5	35.0	7.5	7.5	2.5	2.5
地 域 別	東部地域 (n= 15)	53.3	33.3	53.3	26.7	33.3	0.0	0.0	6.7	0.0
	西部地域 (n= 49)	32.7	14.3	49.0	22.4	30.6	4.1	4.1	8.2	2.0
	南部地域 (n= 31)	51.6	19.4	32.3	38.7	38.7	6.5	12.9	0.0	0.0
	北部地域 (n= 28)	67.9	17.9	39.3	42.9	42.9	7.1	7.1	0.0	0.0

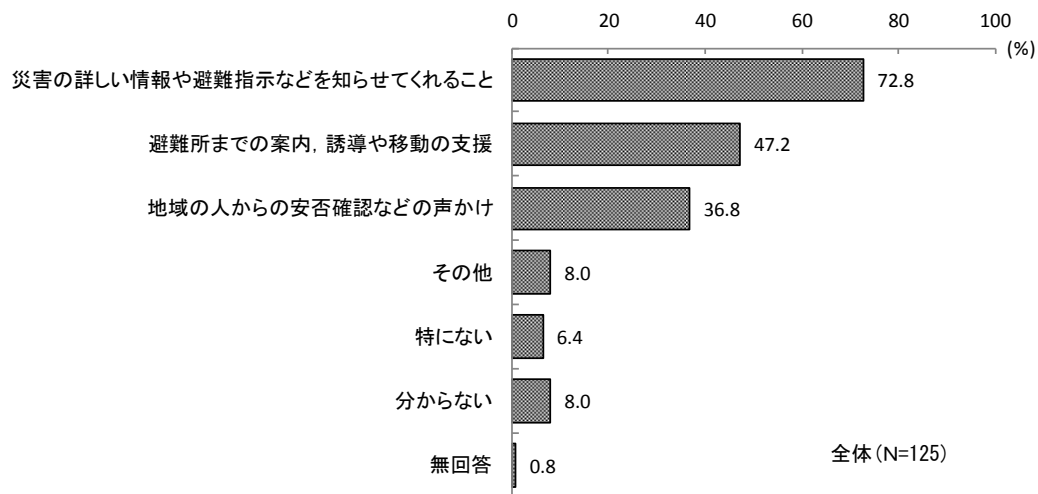
## 6 災害時の対応

### (1) 災害時の避難の際、避難所へ行くまでの間に必要だと思う支援（問 21）

問 21 あなたやお子さまにとって、地震などの災害が発生したときに、災害発生から避難所へ行くまでの間に必要と思われる支援は何ですか。（いくつでも○）

- 災害時の避難の際、避難所へ行くまでの間に必要だと思う支援についてたずねた。
- 全体では、「災害の詳しい情報や避難指示などを知らせてくれること（72.8%）」が最も多く、「避難所までの案内、誘導や移動の支援（47.2%）」、「地域の人からの安否確認などの声かけ（36.8%）」が続いている。
- 年代別にみると、6歳未満は「避難所までの案内、誘導や移動の支援（57.1%）」が全体より9.9ポイント高くなっている。
- 地域別にみると、西部地域では「避難所までの案内、誘導や移動の支援」が5割を超え、南部地域では「地域の人からの安否確認などの声かけ」が5割程度、北部地域では「災害の詳しい情報や避難指示などを知らせてくれること」が8割を超え、全体より高い割合になっており、地域によって異なった支援が求められていることがうかがえる。

図表 5-41 災害時の避難の際、避難所へ行くまでの間に必要だと思う支援（全体：複数回答）



図表 5-42 災害時の避難の際、避難所へ行くまでの間に必要だと思う支援（全体、年代別、地域別：複数回答）

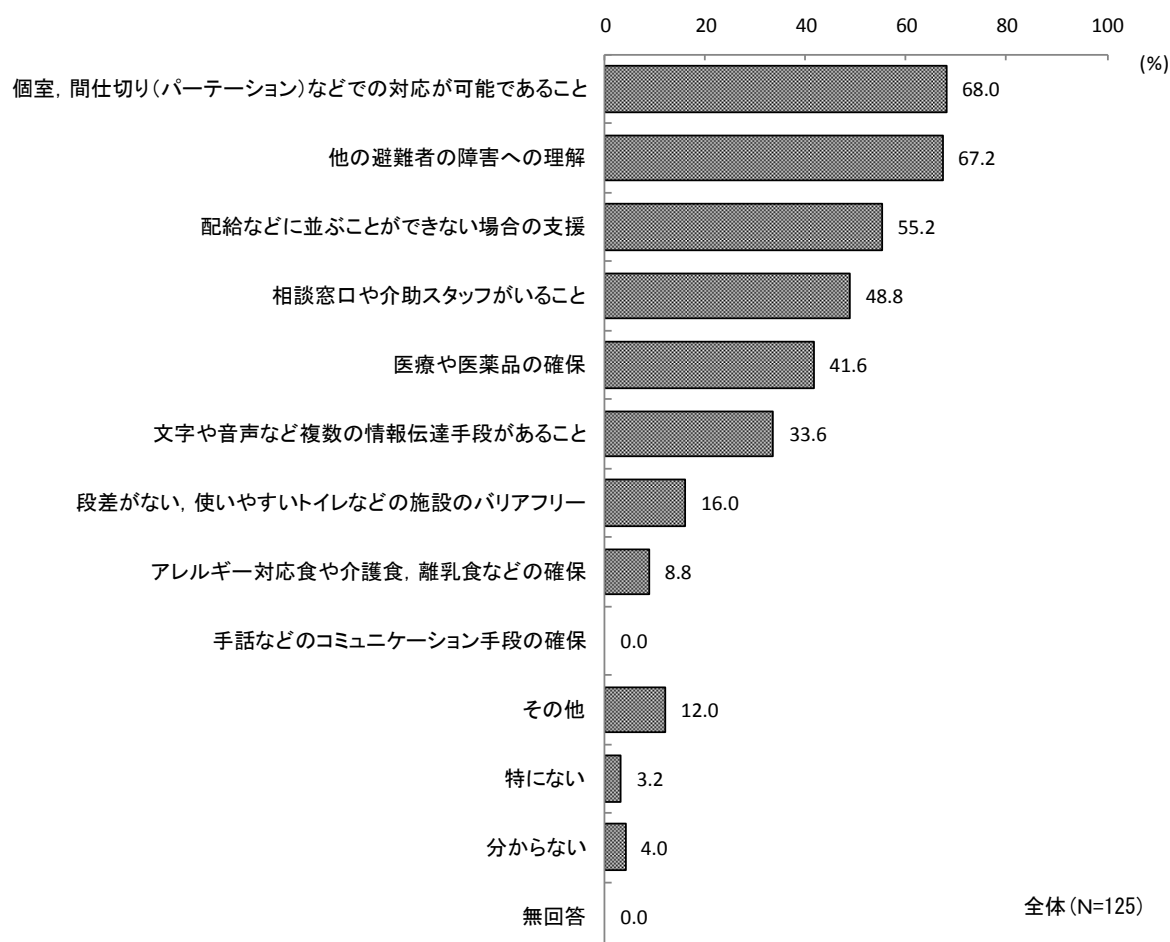
		せ 避 災	確 地	誘 避	そ の	特 に	分 か	無 回
		て 難 害	認 域	導 難	他	な い	ら ない	答
		く 指 の	な の	や 所				
		れ 示 詳	ど 人	移 ま				
		る な し	の か	動 で				
		こ ど い	か ら	の の				
		と を 情	け の	支 案				
		報 ら や	か け	援 内、				
全	体 (N=125)	72.8	36.8	47.2	8.0	6.4	8.0	0.8
年 代 別	6歳未満 (n= 14)	50.0	21.4	57.1	0.0	14.3	7.1	0.0
	6歳以上15歳未満 (n= 65)	75.4	38.5	50.8	9.2	4.6	6.2	0.0
	15歳以上 (n= 40)	75.0	32.5	35.0	7.5	5.0	12.5	2.5
地 域 別	東部地域 (n= 15)	73.3	20.0	53.3	0.0	6.7	0.0	0.0
	西部地域 (n= 49)	71.4	38.8	57.1	8.2	4.1	8.2	0.0
	南部地域 (n= 31)	64.5	48.4	48.4	9.7	9.7	16.1	0.0
	北部地域 (n= 28)	85.7	28.6	28.6	7.1	7.1	3.6	3.6

（2）避難所で必要だと思う支援（問22）

問 22 あなたやお子さまにとって、地震などの災害が発生したときに、避難所において必要と思われる支援は何ですか。（いくつでも○）

- 全体では、「個室，間仕切り（パーティション）などでの対応が可能であること（68.0%）」が最も多く、「他の避難者の障害への理解（67.2%）」、「配給などに並ぶことができない場合の支援（55.2%）」が続いている。
- 年代別にみると、6歳未満では「配給などに並ぶことができない場合の支援」が7割程度、「医療や医薬品の確保」が5割となっており、全体より高くなっている。6歳以上15歳未満では「他の避難者の障害への理解」が7割を超え、「相談窓口や介助スタッフがいること」が5割を超え、全体より高くなっており、年代によって求める配慮が異なっている様子がうかがえる。
- 地域別にみると、東部地域では「個室，間仕切り（パーティション）などでの対応が可能であること」が8割、「医療や医薬品の確保」が5割を超え、南部地域では「他の避難者の障害への理解」が8割程度、「配給などに並ぶことができない場合の支援」が6割を超え、全体より高くなっており、地域により求める配慮が異なっている様子がうかがえる。

図表 5-43 避難所で必要だと思う支援（全体：複数回答）



II アンケート調査の結果

図表 5-44 避難所で必要だと思う支援（全体，年代別，地域別：複数回答）

(%)

		設す段の のバ の差 イが アな フの リ使 ーの ー施 や	るの文 情字 報や 音 達 手 段 が 複 数 あ	保ケ手 ー話 シな ヨの ンコ 段ミ のユ 確ニ	でな(個 あるパ室 ことこのテ間 と対仕 が切 可ヨリ 能ン)	タ相 ツ談 フ窓 が口 い 介 助 ス	の介 確護 保食 、 離 乳 食 な ど	ア レ ル ギ ー 対 応 食 や	医 療 や 医 薬 品 の 確 保
全	体 (N=125)	16.0	33.6	0.0	68.0	48.8	8.8	41.6	
年 代 別	6歳未満 (n= 14)	21.4	14.3	0.0	50.0	35.7	14.3	50.0	
	6歳以上15歳未満 (n= 65)	20.0	35.4	0.0	70.8	53.8	7.7	40.0	
	15歳以上 (n= 40)	10.0	37.5	0.0	72.5	42.5	7.5	40.0	
地 域 別	東部地域 (n= 15)	13.3	40.0	0.0	80.0	46.7	6.7	53.3	
	西部地域 (n= 49)	18.4	32.7	0.0	57.1	42.9	10.2	38.8	
	南部地域 (n= 31)	22.6	32.3	0.0	74.2	58.1	6.5	41.9	
	北部地域 (n= 28)	7.1	35.7	0.0	75.0	50.0	10.7	39.3	

		援が配 で給 きな どに 場並 合ぶ のこ 支と	の他 理の 解避 難 者 の 障 害 へ	そ の 他	特 に な い	分 か ら な い	無 回 答
全	体 (N=125)	55.2	67.2	12.0	3.2	4.0	0.0
年 代 別	6歳未満 (n= 14)	71.4	57.1	14.3	0.0	0.0	0.0
	6歳以上15歳未満 (n= 65)	58.5	72.3	9.2	3.1	1.5	0.0
	15歳以上 (n= 40)	50.0	67.5	15.0	2.5	10.0	0.0
地 域 別	東部地域 (n= 15)	60.0	60.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	西部地域 (n= 49)	53.1	63.3	14.3	2.0	4.1	0.0
	南部地域 (n= 31)	64.5	80.6	6.5	3.2	6.5	0.0
	北部地域 (n= 28)	50.0	67.9	17.9	7.1	3.6	0.0

## 7 福祉のまちづくり・地域社会に対する考え方

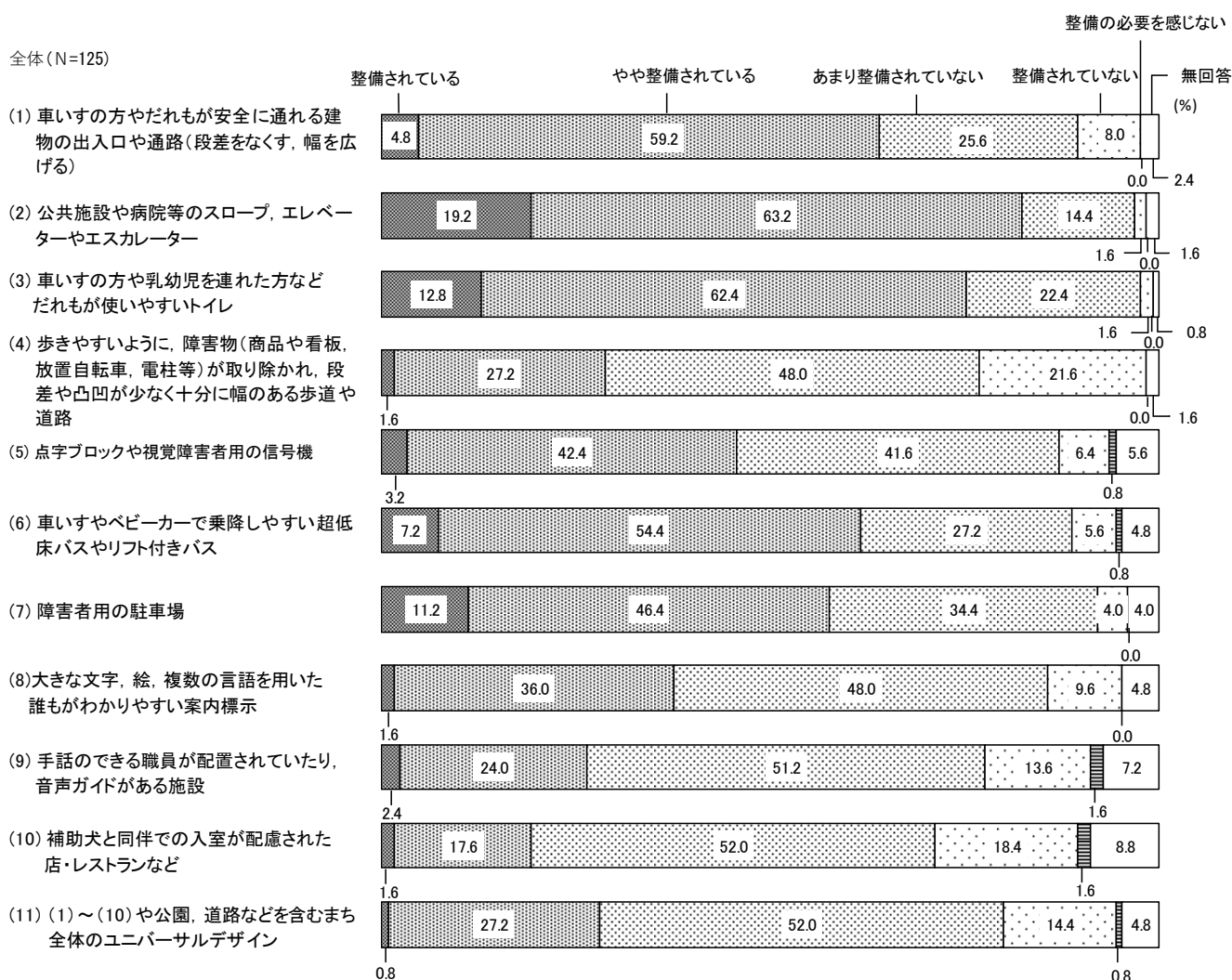
### (1) バリアフリー化の状況（問23）

問23 あなたは、現在、調布市の建築物や公共交通機関、情報案内、公園や道路などについて、障害のある人や妊婦、子どもづれ、高齢者、外国人等が利用しやすいように整備されていると思いますか。

(1)～(11)について、それぞれ1つに○をつけてください。

○ 「整備されている」と「やや整備されている」を合わせた《整備されている》の割合は、『公共施設や病院等のスロープ、エレベーターやエスカレーター』、『車いすの方や乳幼児を連れての方などだれもが使いやすいトイレ』で、それぞれ82.4%、75.2%と高くなっている。

図表 5-45 バリアフリー化の状況（全体）



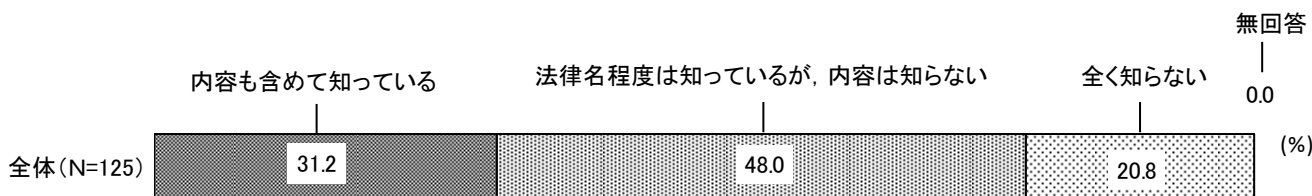
(2) 障害者差別解消法の認知度 (問 24)

問 24 平成 28 年 4 月から、「障害者差別解消法（障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律）」が施行されました。

あなたは、「障害者差別解消法」について、どの程度知っていましたか。（1つに○）

- 全体では、「内容も含めて知っている」が 31.2%である。一方、「法律名程度は知っているが、内容は知らない (48.0%)」と「全く知らない (20.8%)」を合わせた《内容は知らない》の割合は 68.8%となっている。
- 年代別にみると、6 歳未満では「内容も含めて知っている」が 4 割を超え、全体より高くなっている。
- 地域別にみると、東部地域と北部地域で「内容も含めて知っている (東部:40.0%, 北部:42.9%)」が全体より高くなっている。

図表 5-46 障害者差別解消法の認知度 (全体)



図表 5-47 障害者差別解消法の認知度 (全体, 年代別, 地域別)

		(%)	内容も含めて知っている	法律名程度は知っているが、内容は知らない	全く知らない	無回答
全	体 (N=125)		31.2	48.0	20.8	0.0
年 代 別	6 歳未満 (n= 14)		42.9	35.7	21.4	0.0
	6 歳以上15歳未満 (n= 65)		29.2	52.3	18.5	0.0
	15歳以上 (n= 40)		30.0	45.0	25.0	0.0
地 域 別	東部地域 (n= 15)		40.0	53.3	6.7	0.0
	西部地域 (n= 49)		20.4	61.2	18.4	0.0
	南部地域 (n= 31)		35.5	32.3	32.3	0.0
	北部地域 (n= 28)		42.9	39.3	17.9	0.0

（3）障害を理由に差別を受けたり，偏見を感じることの有無（問25）

問25 お子さまやあなたは，障害を理由に差別を受けて嫌な思いをしたり，偏見を感じたりすることがありますか。（1つに○）

- 障害を理由に差別を受けたり，偏見を感じることの有無は，「よくある（8.8%）」と「ときどきある（25.6%）」を合わせた《ある》は34.4%，「あまりない（48.0%）」と「全くない（9.6%）」を合わせた《ない》は57.6%となっている。

図表5-48 障害を理由に差別を受けたり，偏見を感じることの有無（全体）



- 問25で障害を理由に差別を受けて嫌な思いや偏見を感じたことが，「よくある」，「ときどきある」と回答した人にその具体的な内容についてたずねた。
- 「ジロジロ見られる」，「嫌な態度をされる」，「うるさいと言われる」，「からかわれる」，「笑われる」などの意見があげられた。中には「レストランで近くの席に座ろうとした人が，子どもを見て遠くの席にかえた」という経験や，見た目では分からない障害を抱えている人は「周囲から変な目で見られる」といった経験をしたことがあげられた。

（4）してほしい支援や配慮（合理的配慮）・心に残っている支援や配慮（問26）

問26 あなたが，役所，会社，お店などで困っている時にしてほしい支援や配慮（合理的配慮），またはこれまでに心に残っている支援や配慮があればお書きください。

- 役所，会社，お店などで困っている時にしてほしい支援や配慮（合理的配慮），また，これまでに心に残っている支援や配慮について自由記述形式でたずねたところ，43件の回答があった。以下に主なものを掲載する。

① してほしい支援や配慮（合理的配慮）

（声かけに関すること）

- ・こちらから質問をしなくても，困っている様子が見られたら，こちらから声かけをしてほしい（女性，6歳以上15歳未満）
- ・困っている様子がある時は声かけしてほしい。障害者は自ら助けてとはいえない人が多い。（男性，6歳以上15歳未満）



### (役所やお店などでの待ち時間に関すること)

- ・役所での手続関係は時間がかかるので早く済ませられると良い。(男性, 6歳未満)

### (支援について)

- ・車イスで段差があるときは店や学校などその建物にいる男性の人が持ち上げてほしい。(男性, 6歳以上15歳未満)
- ・こちらのペースに合わせてゆっくり, 余裕を持って話をしてほしい(急かさないでほしい)。(男性, 15歳以上)
- ・大きな店のみで良いので, ハンディキャップのある人やお年寄り向けの「時間のかかる人用レジ」や「窓口」etc を作ってほしい。(男性, 15歳以上)

## ② 心に残っている支援や配慮

### (声かけに関すること)

- ・顔見知りの店員さんや職員さんに「〇〇くんは元気ですか。」等, 声をかけてもらえるのはとても嬉しい。(男性, 15歳以上)

### (役所やお店などでの待ち時間に関すること)

- ・子どもと一緒に長時間並んで待つ必要がある場合, 事前に申請しておけばサポートカードをもらえて, 指定の時間を教えてもらえるサービスはとてもありがたかった。(女性, 6歳以上15歳未満)
- ・列に並んでいられず, 一番後ろへ並び直した時に, 最初に並んでいたところに戻してもらえた。じっとしていられない息子を, 私が話をしている間に相手をしてくれた(役所内を散歩してくれました)。(男性, 6歳未満)

### (支援について)

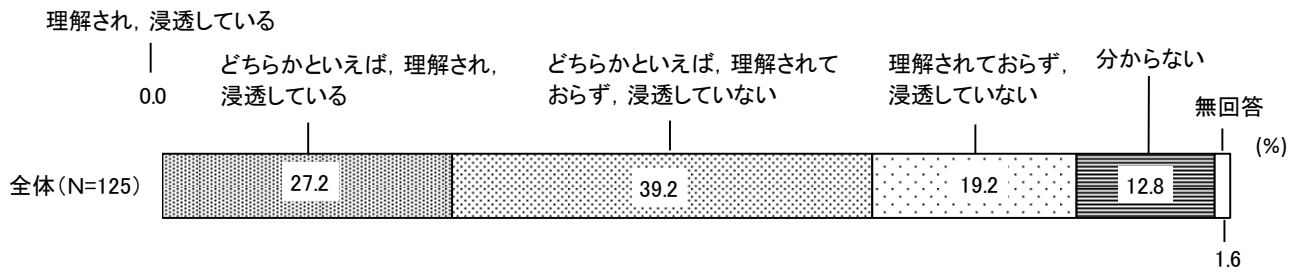
- ・母と子で買い物に行き, 車から車イスを降ろそうとした際, 男性の方が「降ろしましょうか」と声をかけてくださり, とても助かりました。(女性, 6歳以上15歳未満)

(5) 共生社会の実現状況の実感 (問 27)

問 27 「すべての人々が年齢や障害の有無によって分け隔てられることなく、互いの人格と個性を尊重しあいながら共生する社会（共生社会）を目指す」という考え方について、調布市では市民に理解され、浸透していると思いますか。（1つに○）

- 共生社会の実現状況の実感は、全体では、「理解され、浸透している（0.0%）」と「どちらかといえば、理解され、浸透している（27.2%）」を合わせた《浸透している》の割合は27.2%、「どちらかといえば、理解されておらず、浸透していない（39.2%）」と「理解されておらず、浸透していない（19.2%）」を合わせた《浸透していない》の割合は58.4%となっている。
- 年代別にみると、6歳未満では《浸透していない（78.6%）》の割合が全体より20.2ポイント高くなっている。
- 地域別にみると、《浸透していない》の割合は、東部地域で73.4%と最も高く、南部地域で48.4%と最も低くなっており、地域により実感が異なる様子がうかがえる。

図表 5-49 共生社会の実現状況の実感（全体）



図表 5-50 共生社会の実現状況の実感（全体、年代別、地域別）

		(%)	い 理 解 さ れ 、 浸 透 し て	い 理 ど る 解 ち さ ら か と 浸 透 し ば 、	浸 理 ど 透 解 ち し さ ら か と い て と い え ば 、	浸 理 ど 透 解 し さ ら か と い て お ら ず 、	分 か ら な い	無 回 答
全	体 (N=125)		0.0	27.2	39.2	19.2	12.8	1.6
年 代 別	6歳未満 (n= 14)		0.0	21.4	35.7	42.9	0.0	0.0
	6歳以上15歳未満 (n= 65)		0.0	27.7	41.5	12.3	16.9	1.5
	15歳以上 (n= 40)		0.0	30.0	37.5	20.0	10.0	2.5
地 域 別	東部地域 (n= 15)		0.0	0.0	46.7	26.7	20.0	6.7
	西部地域 (n= 49)		0.0	28.6	34.7	20.4	16.3	0.0
	南部地域 (n= 31)		0.0	38.7	29.0	19.4	9.7	3.2
	北部地域 (n= 28)		0.0	28.6	53.6	14.3	3.6	0.0

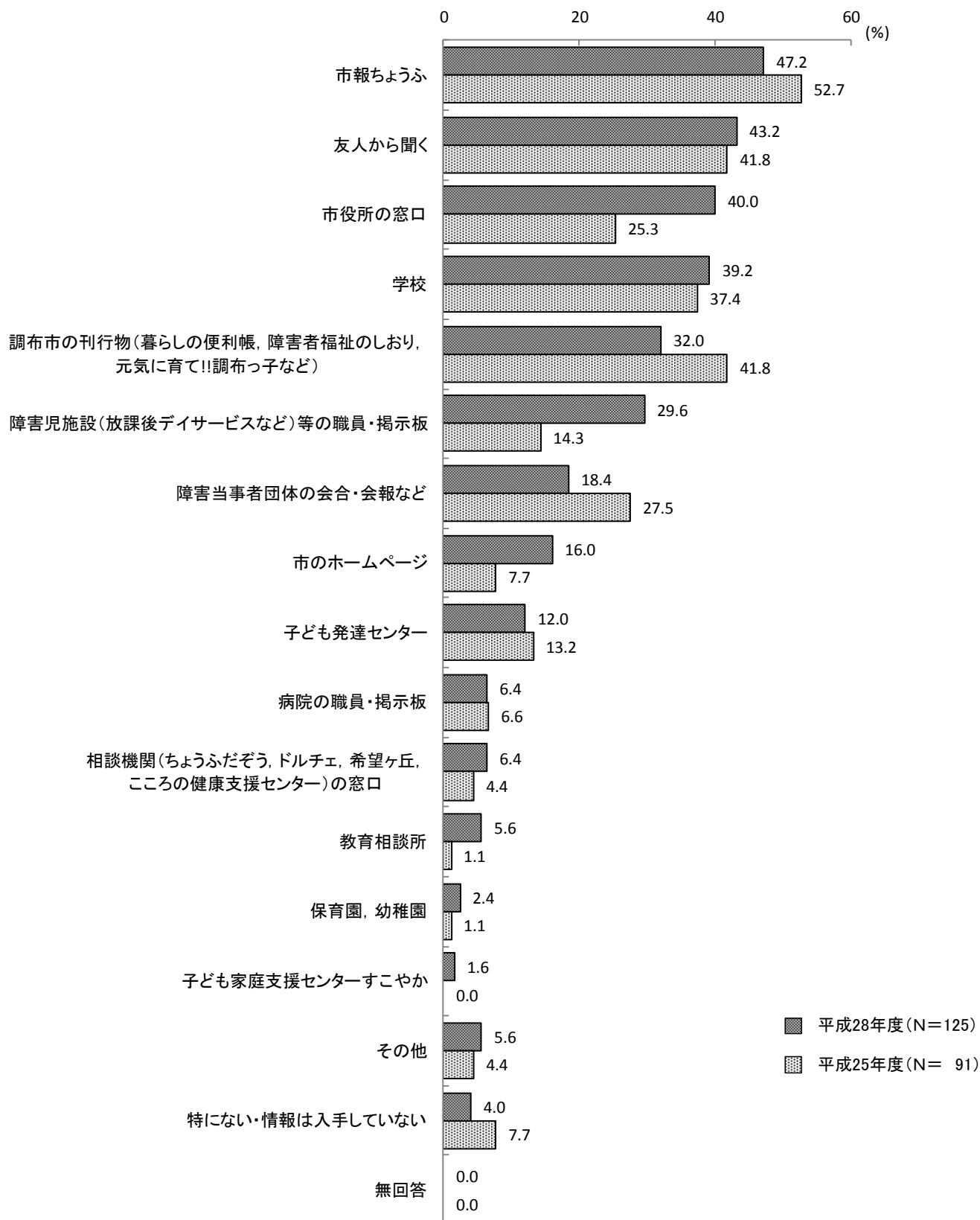
## 8 調布市の障害者福祉施策

### (1) 調布市の障害者福祉施策（サービス）に関する情報の入手経路（問 28）

問 28 あなた（あて名のご本人を主にサポートしている方）は、調布市の障害者福祉施策（サービス）に関する情報をどこから入手していますか。（いくつでも○）

- **全体**では、「市報ちょうふ（47.2%）」が最も多く、「友人から聞く（43.2%）」、「市役所の窓口（40.0%）」が続いている。
- **年代別**にみると、6歳未満では「市のホームページ」と「子ども発達センター」が4割を超え、15歳以上では「学校」、「友人から聞く」が5割を超え、子どもの年代で情報の入所先が異なる様子がうかがえる。
- **地域別**にみると、東部地域では「市のホームページ」が4割、南部地域では「市役所の窓口」と「学校」が5割程度、「調布市の刊行物（暮らしの便利帳、障害者福祉のしおり、元気に育て！！調布っ子など）」が4割を超え、全体より高くなっている。北部地域では、「市報ちょうふ」が6割を超え、「市役所の窓口」が5割、「障害児施設（放課後デイサービスなど）等の職員・掲示板」が4割程度、「障害当事者団体の会・会報など」が3割を超え、全体より高くなっている。
- **経年**で比較すると、28年度は25年度と比べると、「障害児施設（放課後デイサービスなど）等の職員・掲示板」では15.3ポイント、「市のホームページ」では8.3ポイント高くなっている。一方、「調布市の刊行物（暮らしの便利帳、障害者福祉のしおり、元気に育て！！調布っ子）」の割合が9.8ポイント低くなっている。

図表 5-51 調布市の障害者福祉施策（サービス）に関する情報の入手経路【経年比較】  
（全体：複数回答）



II アンケート調査の結果

図表 5-52 調布市の障害者福祉施策（サービス）に関する情報の入手経路  
（全体、年代別、地域別：複数回答）

		市役所の窓口	病院の職員・掲示板	職員・掲示板的	障害児施設（放課後デイサービスなど）等の	支援センター（この健康センター）の窓口	望ヶ丘、ドルチェ、希望ヶ丘、この健康センター	相談機関（ちようふだぞう、ドルチェ、希望ヶ丘、この健康センター）	子ども発達センター	子ども家庭支援センター	教育相談所	保育園、幼稚園	学校
全	体 (N=125)	40.0	6.4	29.6	6.4	12.0	1.6	5.6	2.4	39.2			
年	6歳未満 (n= 14)	21.4	7.1	0.0	0.0	42.9	0.0	7.1	7.1	0.0			
	6歳以上15歳未満 (n= 65)	46.2	7.7	32.3	4.6	13.8	1.5	7.7	3.1	41.5			
	15歳以上 (n= 40)	37.5	5.0	37.5	12.5	0.0	2.5	2.5	0.0	52.5			
地	東部地域 (n= 15)	33.3	13.3	13.3	0.0	20.0	0.0	0.0	0.0	33.3			
	西部地域 (n= 49)	30.6	6.1	36.7	10.2	12.2	4.1	6.1	4.1	36.7			
	南部地域 (n= 31)	51.6	6.5	19.4	6.5	12.9	0.0	3.2	3.2	51.6			
	北部地域 (n= 28)	50.0	3.6	39.3	3.6	7.1	0.0	10.7	0.0	32.1			

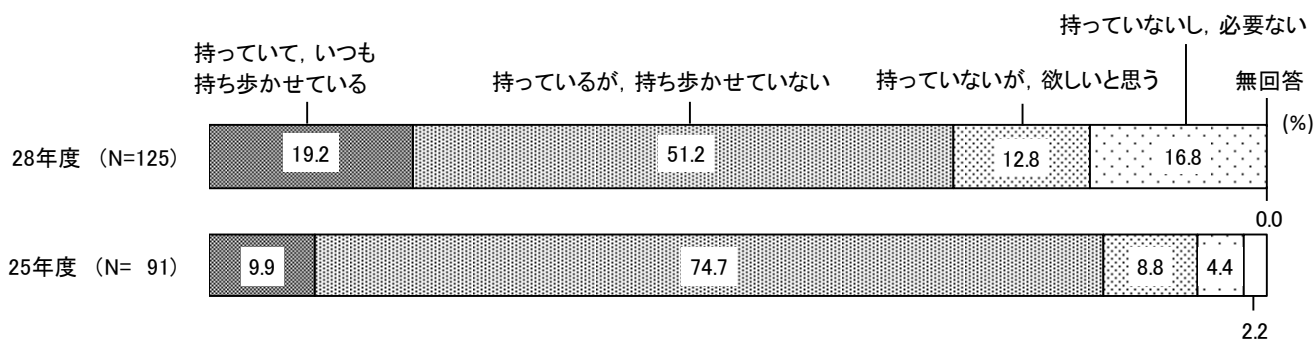
		友人から聞く	市報ちようふ	市のホームページ	調布市の刊行物（暮らしの便利帳、障害者福祉の調布っ子など）	調布市の刊行物（暮らしの便利帳、障害者福祉の調布っ子など）	障害当事者団体の会合・会報など	その他	していない・情報は入手していない	無回答
全	体 (N=125)	43.2	47.2	16.0	32.0	18.4	5.6	4.0	0.0	
年	6歳未満 (n= 14)	28.6	35.7	42.9	21.4	28.6	7.1	0.0	0.0	
	6歳以上15歳未満 (n= 65)	43.1	47.7	16.9	30.8	18.5	7.7	4.6	0.0	
	15歳以上 (n= 40)	52.5	47.5	2.5	37.5	12.5	2.5	2.5	0.0	
地	東部地域 (n= 15)	20.0	40.0	40.0	26.7	13.3	0.0	0.0	0.0	
	西部地域 (n= 49)	46.9	42.9	16.3	24.5	10.2	10.2	6.1	0.0	
	南部地域 (n= 31)	41.9	45.2	9.7	45.2	19.4	6.5	3.2	0.0	
	北部地域 (n= 28)	50.0	64.3	10.7	35.7	35.7	0.0	0.0	0.0	

(2) ヘルプカードの所持について (問 29)

問 29 あなたは、お子さまに調布市が配布しているヘルプカードを持たせていますか  
(1つに〇)

- ヘルプカードの所持については「持っているが、持ち歩かせていない (51.2%)」が最も多く、「持っている、いつも持ち歩かせている (19.2%)」と合わせた《持っている》の割合は70.4%となっている。
- 経年で比較すると、28年度は25年度と比べると、《持っている》の割合は、28年度は70.4%であり、25年度の84.6%より14.2ポイント低くなっている。

図表 5-53 ヘルプカードの所持について (全体) 【経年比較】

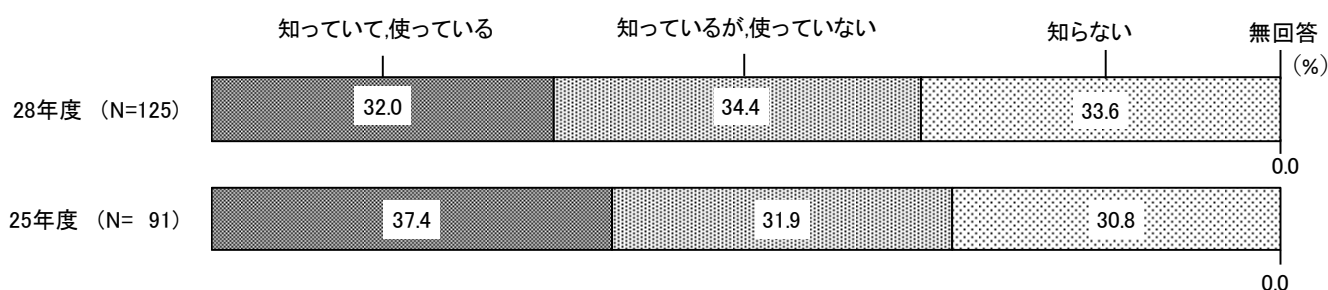


### （3）i-ファイルの認知状況（問30）

問30 あなたは、調布市が個別配布している、“<sup>アイ</sup>i-ファイル”を知っていますか。  
 （1つに○）

- i-ファイルの認知状況は、「知っている、使っている（32.0%）」と、「知っているが、使っていない（34.4%）」を合わせた《知っている》の割合は、66.4%となっている。
- 経年で比較すると、28年度は25年度と比べると、《知っている》の割合は、28年度は66.4%であり、25年度の69.3%と大きな変化はないが、「知っている、使っている」が5.4ポイント低くなっている。

図表 5-54 i-ファイルの認知状況（全体）【経年比較】



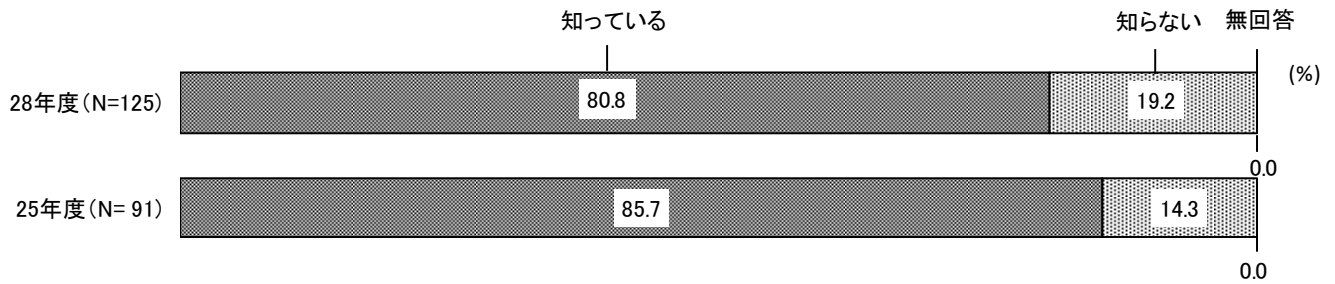
### （4）市の相談窓口の認知状況（問31）

問31 次の調布市の相談窓口を知っていますか。  
 （1）～（11）について、それぞれ1つに○をつけてください。

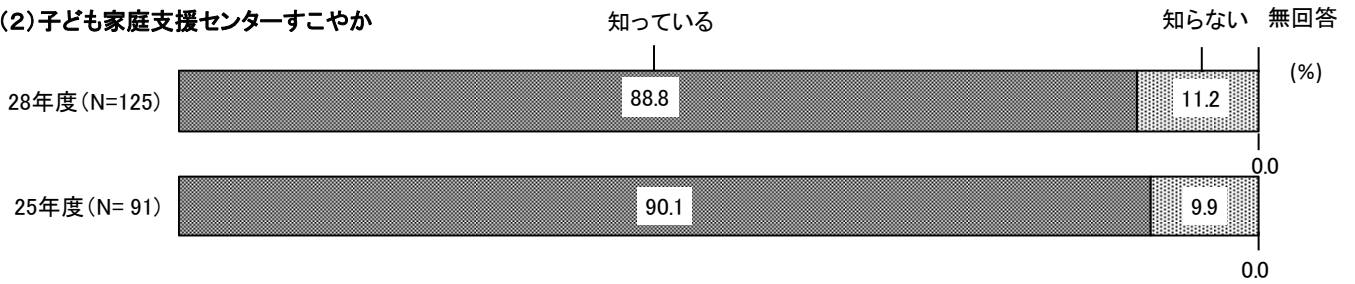
- 調布市の11の相談窓口の認知状況をたずねた。
- 『子ども発達センター』、『子ども家庭支援センターすこやか』、『教育相談所』は「知っている」の割合が8割以上、『保健センター（健康推進課）』は、「知っている」の割合が7割以上となっている。『教育支援コーディネーター室』、『ドルチェ』、『こころの健康支援センター』は「知っている」の割合が3～4割にとどまっている。
- 一方、『希望ヶ丘』、『難病相談窓口』、『障害者虐待防止センター』は、「知らない」の割合が8割以上で「知っている」を大きく上回っている。
- 経年で比較すると、28年度は25年度と比べると、『ドルチェ』、『こころの健康支援センター』では認知度が高くなっている。一方、『子ども発達センター』、『子ども家庭支援センターすこやか』、『教育相談所』、『保健センター（健康推進課）』、『ちょうふぞう』、『希望ヶ丘』では低くなっている。

図表 5-55 市の相談窓口の認知状況（全体）【経年比較】

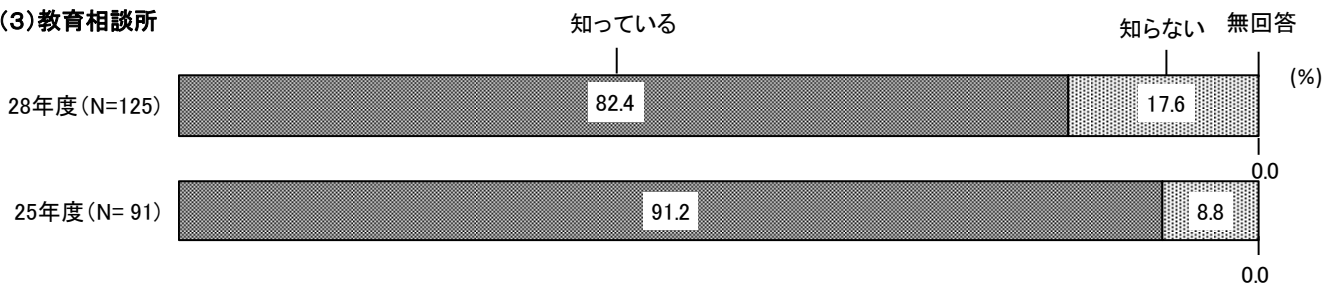
(1) 子ども発達センター



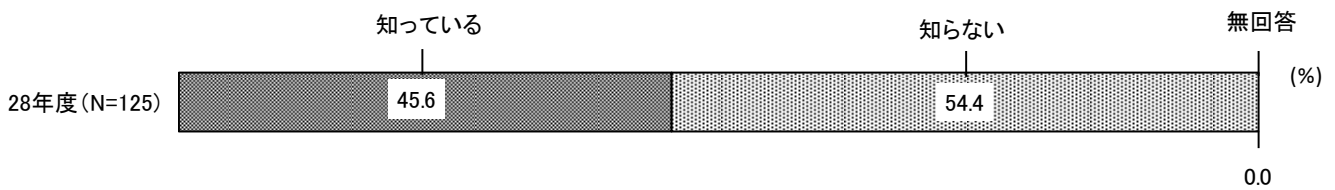
(2) 子ども家庭支援センターすこやか



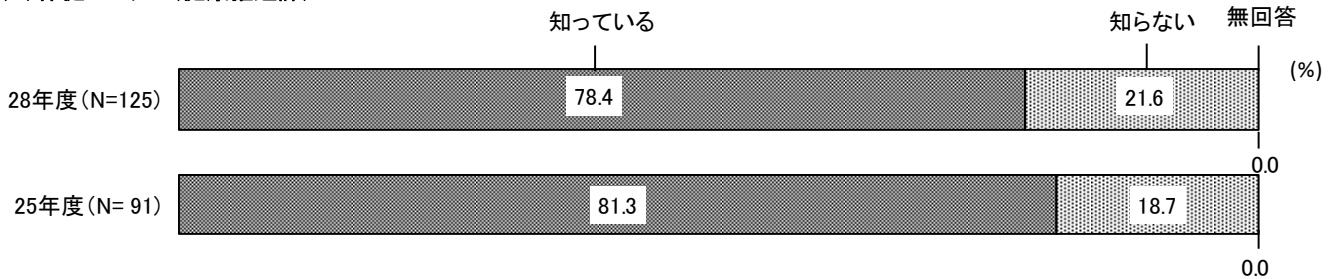
(3) 教育相談所



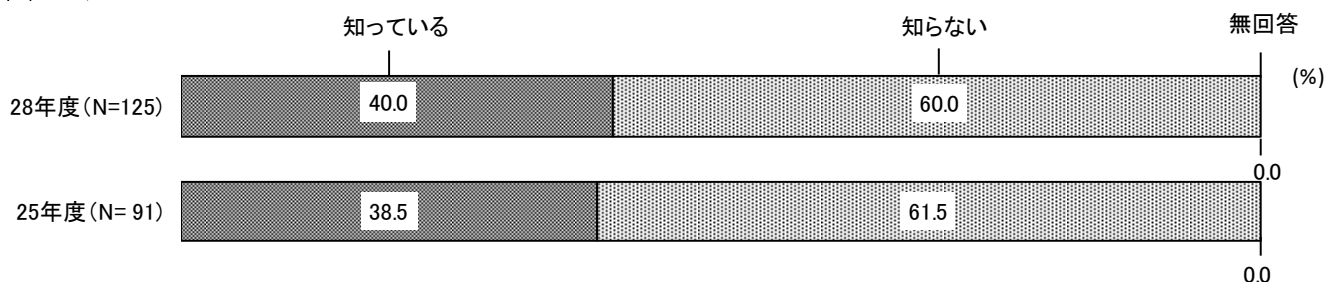
(4) 教育支援コーディネーター室



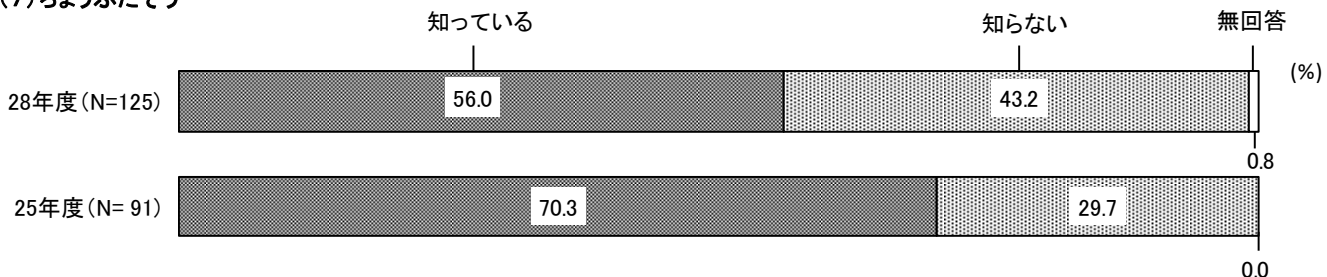
(5) 保健センター(健康推進課)



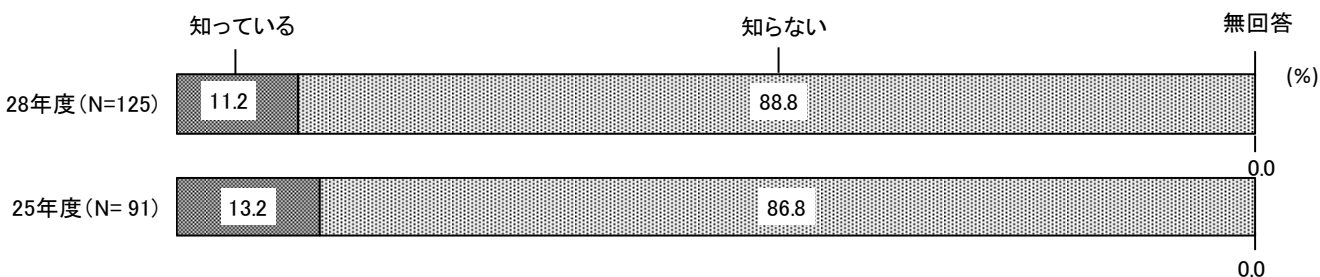
(6)ドルチェ



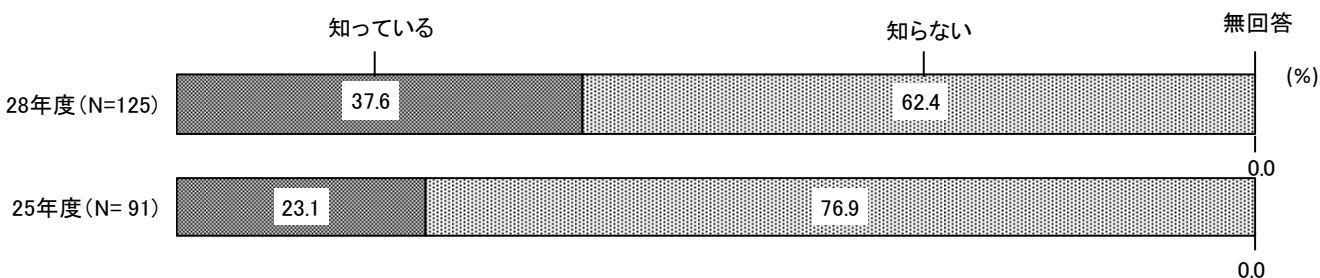
(7)ちょうふだぞう



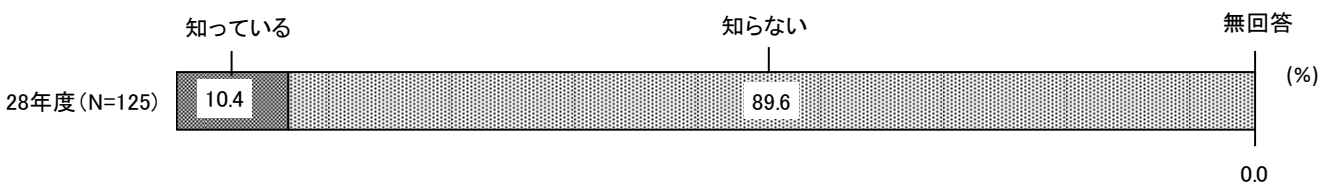
(8)希望ヶ丘



(9)こころの健康支援センター



(10)難病相談窓口



(11)障害者虐待防止センター



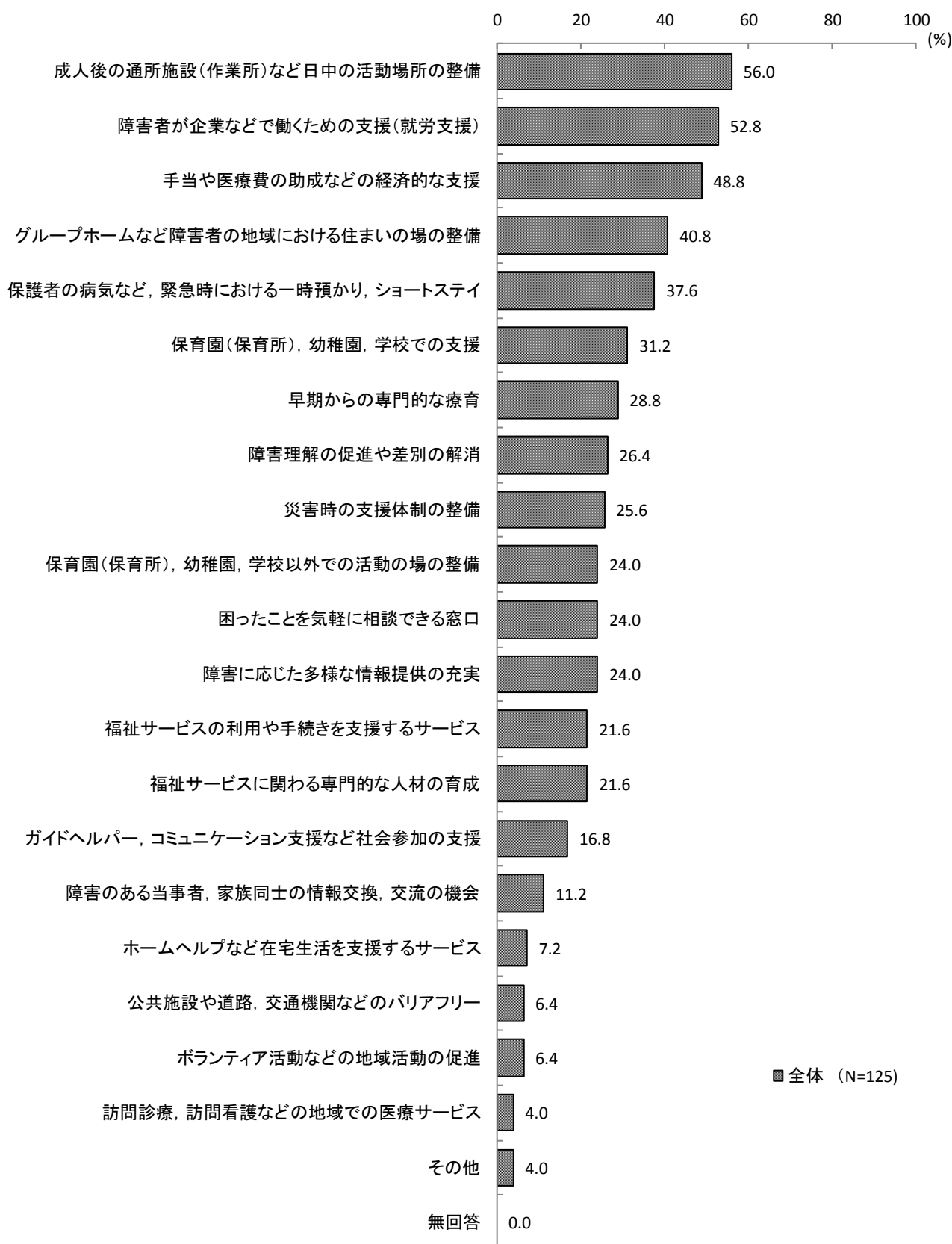


(5) 今後力を入れるべき障害者福祉施策（サービス）（問 32）

問 32 次にあげる障害者福祉に関する取組のうち、あなたが今後調布市で特に充実させてほしいものはどれですか。（5つまで○）

- **全体**では、「成人後の通所施設（作業所）などの日中の活動場所の整備（56.0%）」が最も多く、「障害者が企業で働くための支援（就労支援）（52.8%）」、「手当や医療費の助成など経済的な支援（48.8%）」となっている。
- **年代別**にみると、6歳未満では、「早期からの専門的な療育」、「保育園（保育所）、幼稚園、学校での支援」が6割を超え、全体より高くなっている。6歳以上15歳未満では「障害者が企業などで働くための支援（就労支援）」が6割を超え、高い割合となっており、年代によって充実を望む施策が異なることが分かる。
- **地域別**にみると、東部地域では「保育園（保育所）、幼稚園、学校での支援」が6割、西部地域では「早期からの専門的な療育」が4割を超え、全体より高くなっている。南部地域では「手当や医療費の助成などの経済的な支援」が6割程度、「保護者の病気など、緊急時における一時預かり、ショートステイ」が5割程度、「困ったことを気軽に相談できる窓口」、「災害時の支援体制の整備」、「障害理解の促進や差別の解消」が3割を超え、全体より高くなっている。北部地域では「福祉サービスに関わる専門的な人材の育成」が4割を超え、全体より高くなっており、地域によって充実を望む施策が異なっている様子がうかがえる。
- **障害手帳別**にみると、身体障害者手帳を持っている方は、「保護者の病気など、緊急時における一時預かり、ショートステイ」が5割程度、「障害に応じた多様な情報提供の充実」が4割程度、「障害のある当事者、家族同士の情報交換、交流の機会」が2割を超え、全体より高くなっている。愛の手帳を持っている方は、「成人後の通所施設（作業所）など日中の活動場所の整備」が6割を超え、「グループホームなど障害者の地域における住まいの場の整備」が5割程度となっており、全体より高くなっており、充実を望む施策が異なっている様子がうかがえる。

図表 5-56 今後力を入れるべき障害者福祉施策（サービス）（全体：複数回答（5つまで○））



II アンケート調査の結果

図表 5-57 今後力を入れるべき障害者福祉施策（サービス）  
（全体、年代別、地域別、障害手帳の種別：複数回答（5つまで○））

		育早期からの専門的な療	稚保育園（保育所）、幼稚園（保育所）での支援	動稚保育園（保育所）の場、学校以外での活	ス生活ホームヘルプなど在宅	場業成人後の通所施設（作業所）などの日中の活動（準備）	援く障害者の企業などでの支	なミガイドヘルパー、社会参加の支援	ま害者の地域の整備
全	体 (N=125)	28.8	31.2	24.0	7.2	56.0	52.8	16.8	40.8
年	6歳未満 (n= 14)	64.3	64.3	21.4	0.0	14.3	21.4	0.0	21.4
	6歳以上15歳未満 (n= 65)	21.5	33.8	30.8	7.7	61.5	64.6	20.0	40.0
	15歳以上 (n= 40)	25.0	17.5	15.0	7.5	57.5	45.0	15.0	42.5
地	東部地域 (n= 15)	13.3	60.0	26.7	0.0	53.3	66.7	0.0	40.0
	西部地域 (n= 49)	44.9	32.7	26.5	10.2	59.2	46.9	18.4	38.8
	南部地域 (n= 31)	22.6	22.6	29.0	3.2	61.3	51.6	22.6	45.2
	北部地域 (n= 28)	17.9	21.4	10.7	10.7	46.4	53.6	17.9	39.3
手帳の種別	身体障害者手帳 (n= 27)	29.6	40.7	22.2	7.4	48.1	37.0	25.9	29.6
	愛の手帳 (n=103)	28.2	28.2	27.2	7.8	66.0	55.3	20.4	49.5
	精神障害者保健福祉手帳 (n= 8)	12.5	50.0	0.0	12.5	25.0	87.5	0.0	12.5

		り急保護者のおよけるスライ	ピ手福祉サービスを支援する利用	談困つたことを気軽に相	ピどの地域の訪問看護サ	報障害に对应した多様な情	リ機公共施設や道路、交通	備災害時の支援体制の整
全	体 (N=125)	37.6	21.6	24.0	4.0	24.0	6.4	25.6
年	6歳未満 (n= 14)	28.6	7.1	7.1	7.1	35.7	28.6	28.6
	6歳以上15歳未満 (n= 65)	41.5	26.2	27.7	6.2	21.5	4.6	27.7
	15歳以上 (n= 40)	35.0	22.5	27.5	0.0	25.0	0.0	25.0
地	東部地域 (n= 15)	26.7	20.0	6.7	6.7	20.0	6.7	13.3
	西部地域 (n= 49)	36.7	22.4	22.4	4.1	24.5	6.1	22.4
	南部地域 (n= 31)	51.6	19.4	35.5	3.2	25.8	3.2	35.5
	北部地域 (n= 28)	28.6	21.4	25.0	3.6	25.0	7.1	28.6
手帳の種別	身体障害者手帳 (n= 27)	48.1	29.6	25.9	14.8	40.7	14.8	25.9
	愛の手帳 (n=103)	38.8	22.3	26.2	2.9	22.3	5.8	28.2
	精神障害者保健福祉手帳 (n= 8)	25.0	12.5	25.0	12.5	25.0	0.0	12.5

		流族障害者のある情事者、交	の障害理解の促進や差別	のポランティス活動の促進など	専福祉サービスに関する	ど手当や経済的療費の助成	その他	無回答
全	体 (N=125)	11.2	26.4	6.4	21.6	48.8	4.0	0.0
年	6歳未満 (n= 14)	14.3	14.3	7.1	21.4	64.3	7.1	0.0
	6歳以上15歳未満 (n= 65)	13.8	32.3	9.2	20.0	43.1	3.1	0.0
	15歳以上 (n= 40)	7.5	25.0	2.5	25.0	55.0	5.0	0.0
地	東部地域 (n= 15)	13.3	26.7	0.0	6.7	46.7	0.0	0.0
	西部地域 (n= 49)	6.1	20.4	4.1	16.3	44.9	0.0	0.0
	南部地域 (n= 31)	19.4	35.5	6.5	16.1	58.1	6.5	0.0
	北部地域 (n= 28)	10.7	28.6	14.3	46.4	46.4	10.7	0.0
手帳の種別	身体障害者手帳 (n= 27)	25.9	33.3	7.4	11.1	55.6	3.7	0.0
	愛の手帳 (n=103)	9.7	30.1	6.8	22.3	43.7	4.9	0.0
	精神障害者保健福祉手帳 (n= 8)	25.0	12.5	0.0	25.0	87.5	0.0	0.0

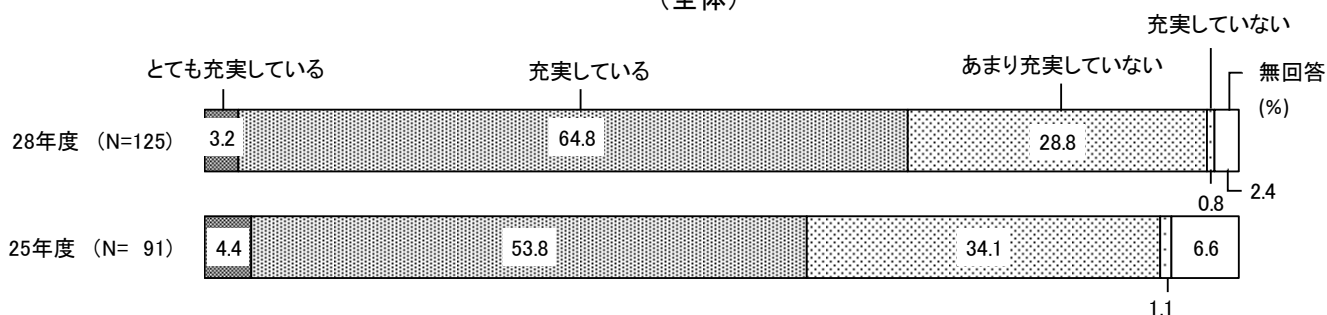
※障害手帳の種別は複数回答

（6）調布市の障害者福祉施策（サービス）の充実についての実感（問33）

問33 調布市の障害者福祉施策（サービス）全般について、あなたはどのように感じますか。  
（1つに○）

- 「とても充実している（3.2%）」と「充実している（64.8%）」を合わせた《充実している》の割合は68.0%となっている。一方、「あまり充実していない（28.8%）」と「充実していない（0.8%）」を合わせた《充実していない》の割合は29.6%となっている。
- 経年で比較すると、28年度では25年度と比べると、《充実している》の割合は、28年度は68.0%であり、25年度の58.2%より9.8ポイント高くなっている。

図表 5-58 調布市の障害者福祉施策（サービス）の充実についての実感【経年比較】  
（全体）

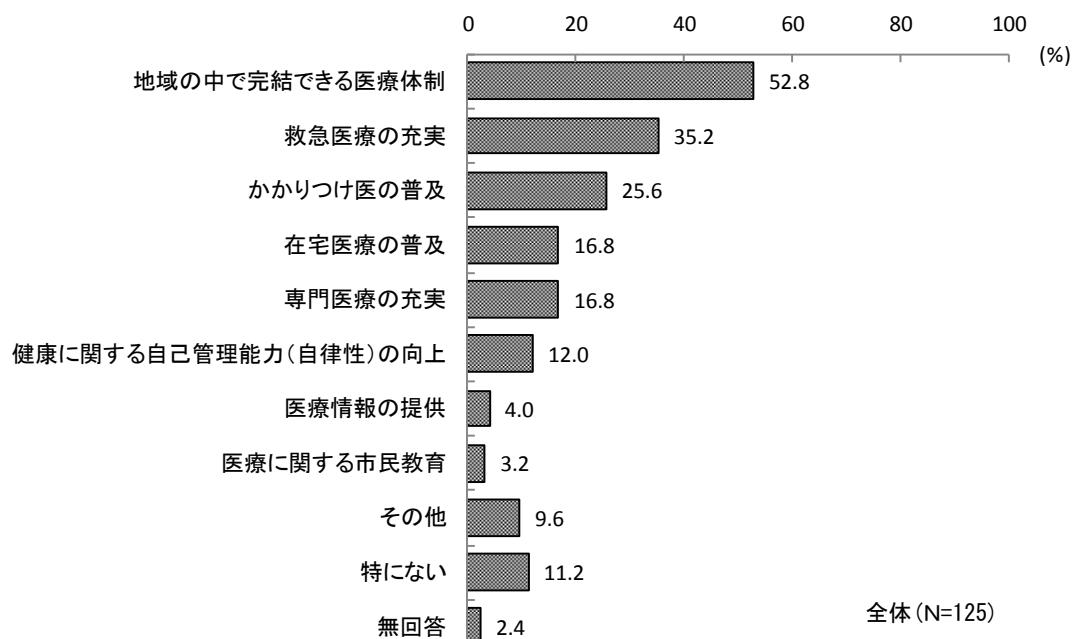


（7）調布市の医療をよりよくするために必要だと思うこと（問34）

問34 調布市の医療をよりよくするために何が重要だと思いますか。（いくつでも○）

- 調布市の医療をよりよくするために必要だと思うことは、「地域の中で完結できる医療体制（52.8%）」が最も多く、「救急医療の充実（35.2%）」、「かかりつけ医の普及（25.6%）」が続いている。

図表 5-59 調布市の医療をよりよくするために必要だと思うこと（全体：複数回答）



## 9 市への要望（問 35）

○ 障害者福祉を進める上での意見・要望を自由記述形式でたずねたところ、73 件の回答があった。以下に主なものを掲載する。

### ① 障害者（児）施策・福祉サービスに対する意見・要望（16 件）

- ・グループホームや就労場所を増やしてほしいのはもちろんですが、車の送迎がなく通えなくて諦めてしまうケースがあると聞きます。今、盛んに一人で通学、通所、通勤を推奨されますが、障害が重いとどうしても無理な人もいます。そうすると家族が送迎しなければならず、負担は相当なものです。一人だと（健常者よりも）トラブルに巻き込まれやすく、簡単にできることではありません。送迎サービスの充実もぜひお願いしたいです。（男性，6 歳以上 15 歳未満）
- ・ヘルプカード、ヘルプマークが理解されていないと思います。職場で話をした際、誰も知りませんでした。カード、マークの意味があるように思えず、バッグの中にしまい、立って通学しています。もっと周知されるような宣伝が国も自治体も必要だと思います。障害は手帳があることで様々な支援がありますが、難病に対する支援は充分ではないと感じます。（女性，15 歳以上，抜粋）
- ・校外活動があると、母の付き添いを学校よりお願いされます。しかし、母は仕事をしており、その都度となると厳しい現実です。このような時にボランティアさんが付き添ってくださると助かります。学校には「無理」と言われてしまいました。（女性，6 歳以上 15 歳未満，抜粋）

### ② 高等部卒業後の支援について（6 件）

- ・高等部卒業後に通えるようなスポーツや余暇活動の場を増やしていただきたいと思います。これからもよろしく願いいたします。（女性，15 歳以上）
- ・高等部卒業後の放課後デイサービスのようものが欲しいです。（男性，15 歳以上）

### ③ 周囲の理解・相互理解（5 件）

- ・困っている人（病気，障害，育児のみならず）に積極的に声かけしていく体制を公共機関（役所，病院，店舗，交通機関）から率先して取り組んでほしい。（男性，6 歳以上 15 歳未満，抜粋）
- ・目に見えない障害を持つ人への理解をしている方が少ないと思います。小さい頃からの教育の中に、入れてくれる etc の工夫をしてもっと知ってほしいと思います。（男性，6 歳以上 15 歳未満，抜粋）
- ・大人の障害者の独り言や奇声も暖かく見守ってにっこり笑ってあげたくなります。（付き添いの方のことを考えると）奇声やパニックはなだめてもどうにもならない時がある。放っておいた方が良い場合もある。（女性，6 歳以上 15 歳未満，抜粋）

### ④ 環境・まちづくりについて（5 件）

- ・市内の歩道も整備してほしい。危険な所がたくさんある。（男性，15 歳以上）

⑤ 送迎支援について（5件）

- ・高等部はスクールバスがないため保護者の送迎負担が大きく困っています。（女性，6歳以上15歳未満，抜粋）
- ・移動支援では通学，通所に使用できない。送迎付きの作業所を選択すると限定されてしまい，本人の希望のところを選ぶことができない。移動にかかわるサポート支援を充実させてほしい。（男性，15歳以上，抜粋）

⑥ 将来の生活について（4件）

- ・これから，社会に出て働くにあたり，作業所が増え，仲間と生活していけるグループホームが充足すると安心できます。やはり，一人で生活していくのは，無理だと思うので，障害者が毎日を充実して過ごせるような市を切に希望します。（女性，年齢不明，抜粋）

⑦ 医療体制の整備について（4件）

- ・怖がって受診できないことを理解してくれる医者が少なく，迷惑がられてしまう。そういう子どもに対する対応，対処，治療をどうすれば良いか，親身になって考えてくれる医者をずっと探していますが見つかりません。（男性，15歳以上，抜粋）
- ・医療機関を受診する際パニックを起こすことがあり，一般の診療時間では他の患者や医療機関に多大な迷惑をかけてしまう。障害児のために，一般とは別に時間枠があると良い。（女性，年齢不明，抜粋）

⑧ 就労支援について（3件）

- ・高等部卒業後の就労先（主に生活介護，B型）の早急の充実を願います！！（女性，15歳以上，抜粋）
- ・子どもが自力で通える範囲に作業所がない。（男性，15歳以上，抜粋）

⑨ 公共施設の利用について（3件）

- ・総合体育館のプールに行きたいが，更衣室が子どもだけでは使えない。誰でも更衣室のような場所があると助かる。（男性，15歳以上，抜粋）
- ・公共施設（プール，体育館等）も障害者にも使用しやすく，専用の日，時間などを設けていただきたいです。健常者と一緒だと気を遣ってしまい安心して使用できません。（男性，6歳以上15歳未満，抜粋）

⑩ 経済的支援（3件）

- ・所得にかかわらず義務教育までは医療費を助成してほしい。（男性，6歳以上15歳未満，抜粋）

⑪ 情報提供（2件）

- ・自分で調べたり，人に聞いたりしないと情報が得られないのが現実です。子どもが生まれた時からすぐに市より情報を色々もらえたら良かったです。（男性，6歳未満，抜粋）
- ・福祉サービスが多いという印象がありましたが，その反面中継役（コーディネーター，ケアマネ）は皆無のため情報の収集が非常に困難でした。（男性，6歳以上15歳未満，抜粋）

### ⑫ 地域活動・居場所づくり（2件）

- ・知的障害にも等級があり、いろいろな子どもがいます。放課後活動で軽度の子ども同士など、等級が同じ位の子の居場所がほしいです。なかなか友人と遊ぶ機会がありません。（女性，6歳以上15歳未満）

### ⑬ 施設について（2件）

- ・作業所が定員いっぱいである将来的に、作業所へ通所できるかどうか不安がいっぱいです。住み慣れた街で、生活できるグループホームの整備もまだまだだと思います。障害児を抱えた親の不安や心配は、なくなりません。（女性，6歳以上15歳未満）

### ⑭ 市の職員・相談窓口への要望（3件）

- ・相談するところは知っているが、内容によって細かく分かれていてよくわからない。どこに相談するのが一番良いのかを教えてください。総合窓口みたいなところがあれば助かると思います。（女性，15歳以上，抜粋）

### ⑮ 市への期待，感謝（8件）

- ・調布市はNPOの団体などがしっかりしているので、とてもありがたいと思っています。市長はじめ市役所や公共の機関の皆様のお力も多々あると思い感謝しています。ありがとうございます。（女性，15歳以上）
- ・作業所，グループホームの開設情報を続けて耳にし、私たちの声をしっかりと受け止めてくださっていることを感じ、とても心強く思います。ご尽力，感謝申し上げます。相変わらず，利用希望者は増える一方で，卒業後，将来の心配は尽きません。引き続き充実，拡大いただけることを願います。（男性，15歳以上）

### ⑯ その他（2件）

- ・未就学児については，障害のレベル・種類にかかわらず，1人で絵本かマンガを読めるようにするのが良いと思う。どんな本であれ，他人の立場に立って物事を捉えるようになることができるし，忙しい親のためにもなる。10歳代の障害者は，具体的なことを知らしめて，やる気を起こさせるすべがないだろうか（将来の就労先の情報，障害者スポーツのニュースなど）。（男性，15歳以上）